平成 27 年度

卒業論文

援助要請する人はどのように見えるのか

―評価する側の要因と評価される側の要因に着目して―

三重大学教育学部　人間発達科学課程

人間発達科学コース 64 期

212710　堤あい

提出日　平成 28 年 1 月 20 日

【目次】

【要旨】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

【問題と目的】

1．はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

2．援助要請の内容および妥当性について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

3．援助要請と被援助志向性について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

4．援助要請が抑制される要因 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

5．援助要請者に対する印象評価について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

6．対人志向性について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

7．本研究の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

8．本研究の仮説 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

【方法】

1．調査対象 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

2．調査時期 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

3．質問紙の構成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

3-1．印象評価尺度

3-2．被援助志向性尺度

3-3．援助要請スタイル尺度

3-4．対人志向性尺度

【結果】

1．操作チェック ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

2．尺度構成の検討 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

2-1．印象評価尺度の分析

2-2．被援助志向性の分析

2-3．援助要請スタイルの分析

2-4．対人志向性の分析

3．援助要請の妥当性と好感度・援助要請受け入れ可能性・援助要請可能性の関係… 31

4. 被援助志向性と対人志向性，援助要請スタイルの関係 ・・・・・・・・・・・・ 33
5. 援助要請受け入れ可能性・援助要請可能性と被援助志向性・対人志向性・援助要請スタイルの関係 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
6. 印象評価と援助要請スタイル・被援助志向性・対人志向性の関係 ・・・・・・ 35

【考察】
1. 援助要請の妥当性と印象評価との関係について ・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
2. 場面ごとの印象評価について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
2-1. 場面 A：お金を借りるについて
2-2. 場面 B：勉強を教えてもらうについて
2-3. 場面 C：仕事の手伝いを頼むについて
2-4. 場面 D：就活相談について
3. 被援助志向性，援助要請スタイル，対人志向性が印象評価に及ぼす影響について…42
3-1. 被援助志向性と対人志向性と援助要請スタイルとの関係
3-2. 被援助志向性および対人志向性と援助要請可能性および要請受け入れ可能性との関係
3-3. 被援助志向性および対人志向性と印象評価との関係
3-4. 援助要請スタイルのクラスタ分析結果について
3-5. 援助要請スタイルと援助要請可能性および要請受け入れ可能性との関係
3-6. 援助要請スタイルと印象評価との関係
【本研究の課題と展望】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
【引用文献】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
【謝辞】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
【資料】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
質問紙調査票パターン①
質問紙調査票パターン②

【要旨】

本研究は，援助要請場面において、「援助要請をする人」に対する印象評価がどのようなものなのか検討したものである。その際，援助要請者側の要因である援助要請内容，援助要請の妥当性，さらに評価する側(第 3 者の立場としての評価者)の要因の援助要請スタイル，被援助志向性，対人志向性によって印象評価がどのように異なるのかという点にも着目した。援助要請者の印象評価については，援助要請を行う場面を複数（4 種類あり，さらに援助要請内容の妥当性の高低の条件があり，計 8 場面を作成した）設定し，そのストーリーのなかの援助要請者に対して印象評価をしてもらった。

まず，援助要請内容の妥当性の高低による印象の違いを検討したところ，全ての場面において「個人的親しみやすさ」は，妥当性低の条件で，ネガティブな方向の印象が強かった。因子分析によって，場面ごとに下位因子を見たところ，場面によって下位因子の構成に違いがあるかないかは異なっていた。これは，援助要請の内容によって，問題の重要性や自尊心への脅威の大きさが違うためではないかと考える。

次に，評価する側の要因として調査した被援助志向性・対人志向性・援助要請スタイルの関係を見たところ，他者に興味・関心がある人ほど，他者に助けられることにネガティブなイメージを持たないということ，そして，援助要請もよくするということが考えられる結果となった。被援助志向性・対人志向性と援助要請受け入れ可能性・要請可能性との関係は妥当性の低い時には見られなかったことから，援助要請を受け入れるか，その援助要請をするかという判断は，評価する側の要因より，評価される側の要因の方が大きく影響してくると考えられる。援助要請スタイルと援助要請受け入れ可能性・要請可能性との間には，援助要請の内容が「貴重な資源の提供を求める」ものである時は関係が見られなかったことから，自身の援助要請スタイルよりも援助要請の内容のほうが自身の援助要請行動に影響するということが考えられる。そして，援助要請スタイルと印象評価との関係は，場面によって異なっていたが，ある場面において，妥当性が高い時，回避型得点が高い人ほど，援助要請者に対してネガティブな印象を，妥当性が低い時，過剰型・自立型得点が高い人ほど援助要請者に対してネガティブな印象を受けるということがわかった。援助要請スタイルよりも要請内容の妥当性の方が印象評価に影響を与えていると考えられるが，援助要請スタイルによって印象評価が異なることが示唆された。

以上のことから，援助要請をする人の印象評価には援助要請の内容が大きく影響するが，評価する側の援助要請スタイルも少なからず影響してくるため，援助要請をする他者に対する印象評価に着目することでその人が「助けられる」ことができるかがわかり，「助けられる」ことをできるようになるようなアプローチもできるのではないかと考えられる。

【問題と目的】

1．はじめに

人間は，互いに助け合い，協力し合って生きている。「助け合い」を促進させようとする時，「助けてあげよう」「優しくしよう」など援助者側の行動に着目されることが多い。学習指導要領においても，小学校指導要領・道徳に，他人とのかかわりについてのところで「親切にする」と書かれており，また中学校指導要領・道徳にも，他人とのかかわりについてのところで「思いやりを持つ」と書かれている。一般的には，援助というと助ける側の視点から考えがちである。しかし「助け合い」という言葉が相互支援や協力をイメージするとおり，もう少し分解して見れば，自分が他者を助けること（自発的な場合と，要請に応えての場合がある）もあれば，他者から助けてもらう，（他者に援助を要請することも含める）ことも想定しているわけであり，「助け―助けられる」という関係が構築されることを言う。奥野(2008)によると，「援助すること」と「援助されること」は表裏一体の関係にある。つまり，「助け合い」を促進するためには，「援助すること」ばかりではなく「援助されること」についても着目する必要があるのではないだろうか。

そこで本研究では，「援助されること」に着目し，特に，他者に「助けてください」とお願いする，つまり，援助要請する人（以下，援助要請者と表記）について検討する。援助要請者に自らがなる要因やならない原因などは調べられているが、援助要請者が他者の場合の研究はあまり行われておらず、どのように捉えられているかはわかっていない。よって，援助要請者に対する印象評価がどのようなものなのか検討する。その際，援助要請者側の要因である援助要請の内容，およびその妥当性，評価する側（第 3 者の立場としての評価者）の要因の援助要請スタイル，被援助志向性，対人志向性によって印象評価が異なるのかにも着目する。

2．援助要請の内容および妥当性について

坂・山村・真下・三宮(2013)は，そもそも大学生は日常生活においてどのような場面でどのようなことに困っているのかについて調べている。その結果，困窮事態を大きく分けると 5 カテゴリーに分類集約している（Table1）。一つのカテゴリー内の中身は多岐にわたっており，細かく 22 のカテゴリーに分けている(坂ら，2013)。

また，援助要請行動は要請の内容によって，援助要請が抑制される要因が違うが，要請

内容としてどのようなものがあるのだろうか。野崎・石井(2004)は，大学生を対象に，「大学に入学してから，困ったり苦しい状況の時，実際に誰かに助けを求めたり，何かをしてもらうように頼んだ出来事」と「大学に入学してから，周りの誰かが他の誰かに助けを求めたり，何かをしてもらうように頼んでいた出来事」を聞いており，その結果，30 種類の援助要請行動を見出している（Table2）。30 種類の援助要請行動は，「緊急事態における援助要請行動」，「日常のちょっとした困窮場面における援助要請行動」，「心理的サポートに関する援助要請行動」，「貴重な資源の提供を求める援助要請行動」，「利己的な援助要請行動」の 5 つに分けられ，問題の重大性，自尊心への脅威，心理的負債感のそれぞれにおいて，5 つの援助要請行動の間で差が見られている(野崎ら，2004)。

これらのことより，大学生は様々な困窮事態を経験しており，そのなかで援助要請行動を行っているということである。

一方，援助要請内容は同じでもその妥当性が高いものと低いものが存在する。妥当性とは，「実情などによくあてはまり，適切である性質」という意味の他に，「ある判断の認識上での価値」という意味がある。つまり，援助要請の妥当性は，援助要請（援助要請者）に対するある判断に大きく影響してくると考えられる。

Table 1 抽出された困窮事態　坂・山村・真下・三宮(2013)より抜粋

最終カテゴリー	3次カテゴリー	2次カテゴリー
1 人間関係の問題	1 周囲とのコミュニケーションの不足	1 周囲との関係形成ができない
		2 周囲との意思疎通ができない
		3 友人への対応がわからない
		4 上下関係での関係形成ができない
		5 友人関係が良好でない
		6 協力者がいない
		7 話し相手がいない
	2 親密関係での調和の不足	8 家族関係が良好でない
		9 恋人関係が良好でない
	3 周囲との調和の不足	10 周囲との調和がない
		11 学校に登校できない
		12 周囲の非常識な行動に対処できない
2 学業の問題	4 学業での必要知識・情報の不足	13 情報不足でわからない
		14 理解不足でわからない
		15 準備不足でわからない
3 忘れ物・落し物の問題	5 必要物品の不足	16 忘れ物や落し物で必要なものがない
4 個人的な問題	6 個人的事情の解決策の不足	17 個人的欲求が満たせない
		18 体調が良好でない
	7 将来に対する安心感の不足	19 将来について安心できない
5 物理的環境の問題	8 環境の整備不足	20 経済的問題が良好でない
		21 図書館が利用できない
		22 生活環境が整っていない

Table 2 援助要請行動の因子分析結果　野崎・石井(2004)より抜粋

因子	項目番号	援助要請行動	因子負荷量				
Ⅰ	(4)	怪我をしたり、病気のとき病院に連れていってくれるよう頼む	.938	.117	.093	.021	.053
	(3)	川や海で溺れたとき助けてくれるよう頼む	.924	.066	.131	-.039	.029
	(1)	具合が悪くなったとき病院に連れていってくれるよう頼む	.895	.108	.112	.051	.078
	(16)	事故を起こしたとき、助けてくれるよう頼む	.804	.111	.240	.047	.076
	(18)	病気で寝込んだとき薬や食料を買ってきてくれるよう頼む	.754	.110	.191	.193	.212
	(14)	車や自転車が故障しているとき、助けてくれるよう頼む	.686	.222	.257	.100	.156
	(21)	怪我をしたとき、傷の手当てをしてくれるよう頼む	.663	.352	.273	.105	.183
	(17)	落し物、無くし物を探してくれるよう頼む	.425	.415	.194	.298	.251
Ⅱ	(23)	筆記用具など忘れたとき、貸してくれるよう頼む	.086	.693	.133	.016	.370
	(26)	道がわからなくなったとき教えてくれるよう頼む	.306	.616	.307	.036	.117
	(20)	機械の操作法など、わからない技術や技能を教えてくれるよう頼む	.207	.608	.289	.250	.033
	(11)	勉強でわからいところを教えてくれるよう頼む	.166	.588	.268	.288	.002
	(10)	自分では持てない荷物を持ってくれるよう頼む	.210	.537	.207	.259	.284
Ⅲ	(15)	友人関係のことで相談に乗ってくれるよう頼む	.320	.272	.788	-.064	-.006
	(30)	進路関係のことで相談に乗ってくれるよう頼む	.394	.234	.731	-.051	.073
	(28)	寂しいときや不安なとき一緒にいてくれるよう頼む	.148	.187	.714	.043	.191
	(9)	恋愛関係のことで相談に乗ってくれるよう頼む	.280	.181	.673	.056	.049
Ⅳ	(5)	自分の課題やレポートを一緒に手伝ってくれるよう頼む	.039	.135	-.099	.746	.087
	(6)	クラブやゼミなどの仕事が早く終わるように手伝ってくれるよう頼む	.165	.206	.050	.682	.121
	(7)	生活費など必要なお金を貸してくれるよう頼む	-.017	-.046	.145	.641	.266
	(2)	授業のノートを貸してくれたり、代返してくれるよう頼む	-.045	.139	-.093	.539	.204
	(8)	交通手段が無かったり、不便だったとき車で送迎してもらうように頼む	.290	.089	.075	.445	.421
	(19)	お金の持ち合わせがないとき、貸していてくれるよう頼む	.078	.203	.120	.414	.350
Ⅴ	(24)	自分の代わりに買い物に行ってくれるよう頼む	.071	.087	-.006	.384	.666
	(25)	席をとっておいてくれるよう頼む	-.034	.447	.083	.167	.569
	(12)	忘れ物を持ってきてくれるよう頼む	.179	.222	.004	.349	.543
	(29)	家に泊めてくれるよう頼む	.343	-.009	.226	.190	.521
	(22)	本やCDなどを貸してくれるよう頼む	.266	.398	.045	.159	.473
	(27)	自分の代わりにアルバイトに入ってくれるよう頼む	.363	.110	.191	.329	.429
	(13)	暇なとき遊び相手になってくれるよう頼む	-.133	.349	.384	.102	.396

3．援助要請と被援助志向性について

一般に，困窮状態に陥ると，誰かに助けてもらうことを考える。高木（1997）の援助要請過程モデルでは，自身の困窮状況の認識や把握の後，一旦は自分で自力解決を目指すことを考え，それが無理だと判断した場合に，やっと誰かに援助を要請することを検討することになる。しかしながら，援助要請をするかどうかは，様々な要因が関係している。その状況の重大さや，その場に援助適任者がいるのかいないのかといったこと，それから自分自身のパーソナリティや普段の行動傾向なども大いに関係するところである。

その中で,援助要請行動に関するパーソナリティとして「被援助志向性(水野・石隈(1999)」がある。援助要請の仕方には当然個人差があるわけであるが，その要因の一つとして，この「被援助志向性」を挙げている。被援助志向性とは，個人が，情緒的，行動的問題および現実生活における中心的な問題でカウンセリングやヘルスサービスなどの専門家，教師などの職業的な援助者および友人・家族などのインフォーマルな援助者に援助を求めるかどうかについての認知的枠組みと定義される。さらに，その被援助志向性に影響を及ぼす変数として，性差・年齢・教育レベルと収入・文化的背景の違いといった「デモグラフィック要因」，ソーシャルサポート・事前の援助体験の有無の「ネットワーク変数」，自尊心・帰属スタイル・自己開示の「パーソナリティ変数」，そして個人の問題の深刻さ，症状の 4

領域に分けられるものがある（水野ら，1999）。また，田村・石隈(2006)は，被援助志向性は特定の状況下で「他者に対する援助の求めやすさ」を測定する「状態被援助志向性」とどんな困難な状況でもある程度一貫した「他者に対する援助の求めやすさ」を測定する「特性被援助志向性」の 2 つに分けて，状態被援助志向性と特性被援助志向性との間には関連が見られ，特性被援助志向性とバーンアウトとの関連についても示唆している。具体的には，被援助に対する懸念や抵抗感が低い教師ほど脱人格化しにくいという結果が見られている。また，後藤・川島(2014)によると，援助要請行動の頻度が多い人ほど，援助要請をした時に一貫して快情動を感じる。被援助志向性は援助要請行動と正の弱い関連が見られる(雨宮・松田，2015)ことより，被援助志向性が高ければ，「援助された」時に快情動を感じることができると考えられる。

また，永井(2013)は，援助要請行動の頻度は人によって異なるとして，援助要請スタイルを検討している。それによると援助要請スタイルは，援助要請自立型，援助要請過剰型，援助要請回避型という 3 つのスタイルに分類されるとしている。援助要請自立型の得点の高い人は，悩みの程度に応じて援助要請を行っていたのに対し，援助要請過剰型の得点の高い人は，悩みが少ない時でも援助要請を多く行っていて，援助要請回避型の得点の高い人は，悩みが多い時でも援助要請を行わなかった。すなわち，援助要請行動は，必ずしも望ましい行動であるとは言えない場合もあるわけであり，単に要請ばかりすればよいというものでもない。援助要請過剰型や回避型の人は，コミュニケーション上も相手との疎通を欠き，援助を上手く導き出すことができない可能性が高い。つまり，援助要請自立型が望ましい形と考えられる。

4. 援助要請が抑制される要因

前述の高木（1997）の援助要請過程モデルで一連の過程が進行したとしても，最終的に必ず援助要請が行われるわけではなく，むしろなかなか援助要請が行われない(できない)，つまり援助要請が抑制される場合も多いと考えられる。

この援助要請が抑制される要因としては，原田・出雲(2008)は負担懸念と評価低下懸念を挙げている。負担懸念とは，自分の援助要請が相手の迷惑や負担になることを恐れること，評価低下懸念とは，援助要請によって自己肯定感や自己評価が下がることを恐れることである。原田ら(2008)は，さらに，負担懸念・評価低下懸念と賞賛獲得欲求・拒否回避欲求との間に相関が見られ，それは援助要請の内容によって相関の方向・強さが異なるとしている。賞賛獲得欲求とは，他者からのある一定水準以上の評価を得ようとする志向性

で,拒否回避欲求とは,他者から嘲笑されたり拒否されたりしたくない欲求のことである。つまり，援助要請は，要請内容によって程度は異なるが，被援助要請者（＝援助者）からの評価を気にすることで抑制されると考えられる。また，援助要請者から見れば，被援助要請者だけでなく，その場に居合わせた第 3 者的な他者，いわば傍観者からの評価もほぼ同様に認知していると考えられ，やはり抑制の方向で働くと考えられる。

5．援助要請者に対する印象評価について

ここまで見てきたように，援助要請行動の生起や促進・抑制には様々な要因や要素があり，被援助者において援助要請がうまくいくかどうかは様々な要因が関わっているといえる。また自分が何か困っているときに援助要請をするかどうかは，前述のように援助者側からの評価の推測も影響すると考えられる。つまり援助要請行動については，自分が他者にどのように見えているのかといったことが大きい。

この点について,「自分が他者にどのように捉えられているか」との認識は「自分が他者をどのように捉えているか」との認識と同じであるという見解がある。人間がどのように他者の行動を捉えているかということについての研究で，ミラーニューロンというものがあることが分かっている。ミラーニューロンとは，ある行動を自身が再現する際に発火するだけでなく，同じ行動（同じような状況で同じような行動）が他者によって再現した際にも発火するものであり，したがって，人間が他者の行動を観察した際には，その行動に対応する自身が持っている表象に照らし合わせてその行動を捉えるということが考えられる(遠藤，2015)。

つまり簡単に言えば，他者の行動を見る時には，自分に当てはめて考えるため，その他者の行動に対する評価は，自分がそうした場合に他者からどのような評価を受けるのかという観点から考えてしまう，ということである。したがって，他者がやろうとしている援助要請の行動一般がどのように見られるのかということについて，そこには自分ならどのように援助要請をするのか，その行動のパターンや癖，さらには要請行動の促進や抑制に影響すると考えられるパーソナリティなども関わってくると考えられる。

ところで，自分の援助要請行動パターンや癖などによって，他者への印象評価が異なるのであろうか。さらに，援助要請行動に対する一般的な印象評価度はどのようなものであろうか。

援助要請行動に対する一般的な印象評価の構造がわかれば，どういう状況でどのように受け取られるかということが明らかになる。それにより客観的な状況理解が深まれば，援

助要請を促進させる手立てになるかもしれない。また，さらには，「助け合い」を促進させることにつながるのではないだろうか。

よって，本研究では，援助要請をする人をどのように捉えるか（＝評価するのか），またそのことが評価する側（一般的な第三者，または傍観者）のもつパーソナリティ要因によって援助要請に対する評価がどのように影響するのか検討する。

本研究では，印象評価については，対人場面における印象形成の基本的な枠組みをもとに考える。これは印象形成の基本 3 次元と呼ばれており，「社会的望ましさ」「個人的親しみやすさ」「力本性」の３つである（大橋・三輪・平林・長戸(1973), 林・大橋・廣岡, (1983)）。さらに廣岡（1984）は，これらの基本 3 次元のなかでどの次元が印象評価のベースになるのか，対人的状況によって異なることを示している。たとえば就職面接の場面では「社会的望ましさ」と「力本性」にウエイトが置かれ，コンパやパーティの場面では「個人的親しみやすさ」の次元が印象評価の際にウエイトが置かれるというものである。この考え方に立ち，援助要請場面は，印象評価の際にどの次元にウエイトが置かれるのか検討する。これまでに，援助要請行動を行う人に対する第 3 者的な立場からの印象評価という観点からの検討は行われていない。今回は，大橋ら（1973）の基本 3 次元をもとに構成されている形容詞によるＳＤ法を用いた印象評価尺度を使って，援助要請場面に対する印象評価を検討する。なお，基本 3 次元の「力本性」については，その意味内容を具体的にわかるように「活動性」に置き換えて記述する。

6. 対人志向性について

対人認知状況において印象形成を行う際には，そもそも，普段どれぐらい他者の行動を見ているかということが重要になってくるのではないだろうか。他者の行動に対して，それに注意や意識が向くかどうか，敏感であるかどうかを測る尺度として対人志向性がある(斎藤・中村，1987)。それによると，対人志向性は「人間関係志向性」「対人的関心・反応性」「個人主義傾向」の 3 因子に分かれ，対人志向性が高いほど，自己開示する人物を好意的に評価し，自己開示しない人物を非好意的に評価することが分かっている。援助要請状況において考えると，「助けを求める」ということは，自分が困っているということを他者へ開示するという行動であり，一種の自己開示であると考える。よって，パーソナリティ変数である対人志向性が「助けを求める」という気持ちである被援助志向性，「助けを求める」スタイルである援助要請スタイルと関連があり，援助要請者に対する印象評価にも影響すると予想する。

7．本研究の目的

援助要請者に対して抱く印象は，援助要請の内容・妥当性，評価者の援助要請スタイル・被援助志向性・対人志向性によって変化するのか，またどのように変化するのかを明らかにする。

8．本研究の仮説

仮説 1：援助要請の妥当性が低い場合は，その援助要請行動に対してはネガティブな印象を形成する

仮説 2：援助要請の状況や内容によって，形成する印象評価の観点が異なる

仮説 3：援助要請スタイルによって，援助要請者に対する印象評価は異なる

【方法】

1．調査対象

三重県内の大学生 184 名に質問紙調査を行い，有効解答数は 184 名(男性 95 名，女性 89 名)。平均年齢は 19.70 歳，標準偏差は 1.12 であった。

2．調査時期および方法

2015 年 7 月下旬～10 月初旬

大学の講義時間に配布し，調査者が注意事項を説明し，回答者にはフェイスシートを読んでからから回答させた。説明を了解し同意が得られた場合に回答するよう依頼した。回答後，調査票はその場で回収した。回答の所有時間は約 20 分であった。

3．質問紙の構成

場面想定法を用いた。想定内容としては，ある場面（ストーリー）においてその中心人物が別の人物に援助要請を行うものである。質問紙は，それぞれの場面において，そのなかで援助要請を行う者に対する印象を第 3 者の立場で評価するものである。

質問紙の構成として，印象評価尺度と 4 つの質問すなわち，想定場面のなかの援助要請者主人公に対する好感度，その要請にあなたなら応えるか，その場面の援助要請に正当性があるか，あなたがもし要請者の立場なら要請をするかどうかの可能性（それぞれ 5 段階評定)，その他に，被援助志向性，援助要請スタイル，対人志向性の 3 つの尺度によって構成された。

想定場面は，野崎・石井(2004)の援助要請行動の抑制要因に基づく援助要請行動の分類から，A お金を借りる場面，B 勉強を教えてもらう場面，C 仕事の手伝いを頼む場面，D 就活についての相談場面の 4 つを選択し，それぞれの場面において，援助要請の妥当性が高いパターンと妥当性が低いパターンをオリジナルで作成した。援助要請の場面は，基本的に，最初は一人でがんばってみるが，途中で行き詰まり，他者に援助を要請しようと決断して，具体的に他者に援助を要請するところまでを，想定上の話として設定した。その要請の仕方，あるいは要請の経緯が，要請者として一般的に妥当であり理解され得るものの場合は「妥当性高」とし，要請者のわがまま独断によるもので一般的には理解され得な

い場合は「妥当性低」として設定した。質問紙は，A 妥当性高・B 妥当性低・C 妥当性高・D 妥当性低の組み合わせと，A 妥当性低・B 妥当性高・C 妥当性低・D 妥当性高の組み合わせで 2 パターンの質問紙を作成した。調査実施時においては，これをランダムに配布した。

また，フェイスシートにおいて，学年，年齢，性別を尋ねた。

3-1 印象評価尺度(16 項目)

大橋・三輪・平林・長戸(1973)によって作成された印象評価尺度（形容詞対からなるもの）から，見た目からしか判断できないような印象評価項目や対象者の気分を推測して尋ねる項目を削除し，文章から読みとれると思われる項目を使用した。その結果,「個人的親しみやすさ」因子 6 項目,「社会的望ましさ」因子 4 項目,「活動性」因子 5 項目，どれにも当てはまらない 1 項目の計 16 項目を選び印象評価尺度とした。両極形容詞の 5 点尺度で測定した。この尺度上で，提示された場面での援助要請者についてどんな印象を持ったかを尋ねた。

3-2 被援助志向性尺度(11 項目)

回答者自身の被援助志向性を尋ねるために，田村・石隈(2001)によって作成された被援助志向性尺度を使用した。「援助の欲求と態度」因子 7 項目,「援助関係に対する抵抗感の低さ」因子 4 項目の計 11 項目からなり,「あてはまらない」から「あてはまる」までの 5 件法で測定した。

3-3 援助要請スタイル尺度(12 項目)

回答者自身の援助要請スタイルを尋ねるために，永井(2013)によって作成された援助要請スタイル尺度を使用した。「援助要請過剰型」因子 4 項目,「援助要請回避型」因子 4 項目,「援助要請自立型」因子 4 項目の計 12 項目からなり,「あてはまらない」から「あてはまる」の 5 件法で尋ねた。いくつかの項目においてすべてが「悩み」という単語を使用して尋ねていたため,「悩み」と「困りごと」が同数になるように文章を変更した。

3-4 対人志向性(18 項目)

回答者自身の対人志向性を測定するために，斎藤・中村(1987)によって作成された対人志向性尺度を使用した。「人間関係志向性」因子 9 項目,「対人的関心・反応性」因子 5 項

目，「個人主義傾向」因子 4 項目の計 18 項目からなり，「全くそう思わない」から「そう思う」の 5 件法で尋ねた。

【結果】

1．操作チェック

想定場面はオリジナルのものを使ったため，場面の妥当性の操作ができているかを，それぞれの場面において尋ねた正当性があるかという項目の t 検定によって確認した。どの場面においても，有意差(p<0.01)が見られた(Table3)。

Table 3 各場面の援助要請の妥当性の高低の操作チェック

		平均値(SD)	t 値
A	妥当性高	3.86(.960)	10.407
	妥当性低	2.16(1.216)	
B	妥当性高	4.49(.721)	18.077
	妥当性低	2.15(1.023)	
C	妥当性高	4.31(.707)	10.853
	妥当性低	2.83(1.084)	
D	妥当性高	4.20(.746)	6.860
	妥当性低	3.30(1.030)	

2．尺度構成の検討

2-1．印象評価尺度の分析

まず，それぞれの場面の妥当性高低別の平均値の差を t 検定によって検討した。場面によって，違った項目において差が見られない項目があったが，ほとんどの項目において，有意差(p<0.01,p<0.05)が見られた(Table4～7)。

次に，それぞれの場面について援助要請の妥当性高低別に主因子法により因子分析を行った。印象評価尺度の因子構造は大橋ら(1973)において，対人認知の基本 3 次元構造として「個人的親しみやすさ」と「社会的望ましさ」と「活動性」に分けられている。それを基に今回の因子分析結果を見ていくと，因子構造は必ずしも基本 3 次元にきれいに分かれてはいなかった。そこで，肯定的な意味の形容詞で説明されている因子を「ポジティブ印象」，否定的な意味の形容詞で説明されている因子を「ネガティブ印象」と命名した。ただし，各場面において同じ名前を命名した因子であっても，そこに含まれる項目（形容詞）は全く同じではなく，いくつかは異なっている。

その結果，それぞれの場面において，援助要請の妥当性の高低には関係なく，場面 A(お

金を借りる場面)は，援助要請妥当性高の時「ポジティブ印象(α=.769)」と「ネガティブ印象(α=.618)」，援助要請妥当性低の時「ネガティブ印象 1(α=.716)」と「ネガティブ印象 2(α=.647)」の 2 因子が抽出された（Table8・9)。「ポジティブ印象」因子には，「生意気でない」「感じの良い」「分別のある」などの項目（形容詞）が，「ネガティブ印象」因子には，「恥知らず」「憎らしい」「軽率な」などの項目（形容詞）が，「ネガティブ印象 1」因子には，「感じの悪い」「人の悪い」「憎らしい」などの項目（形容詞）が，「ネガティブ印象 2」因子には，「恥知らず」「軽率な」「無責任な」などの項目が含まれていた。

場面 B(勉強を教えてもらう場面)では，援助要請妥当性の高低に関わらず「ポジティブ印象(援助要請の妥当性高α=.818，妥当性低α=.712)」と「ネガティブ印象(援助要請の妥当性高α=.394，妥当性低α=577.)」の 2 因子が抽出された（Table10・11)。妥当性高の「ポジティブ印象」因子には，「親しみやすい」「人懐っこい」「社交的な」などの項目（形容詞）が，「ネガティブ印象」因子には，「恥知らず」「軽率な」の項目（形容詞）が，妥当性低の「ポジティブ印象」因子には，「感じの良い」「慎重な」「かわいらしい」などの項目（形容詞）が，「ネガティブ印象」因子には，「非社交的な」「消極的な」「自信のない」などの項目（形容詞）が含まれていた。

場面 C(仕事の手伝いを頼む場面)と場面 D(就活に関する相談場面)では，援助要請妥当性の高低に関わらず「ポジティブ印象(C 援助要請の妥当性高α=.864，C 妥当性低α=.861，D 援助要請の妥当性高α=.848，D 妥当性低α=.879)」の 1 因子が抽出された(Table12～15)。場面 C の妥当性高・低どちらともの「ポジティブ印象」因子には，「感じの良い」「人の良い」「責任感の強い」などの項目（形容詞）が，場面 D の妥当性高・低どちらともの「ポジティブ印象」因子には，「人の良い」「感じの良い」「社交的な」などの項目（形容詞）が含まれていた。

Table 4 場面 A（お金を借りる場面）における t 検定の結果

	妥当性高 平均値(*SD*)	妥当性低 平均値(*SD*)	t 値
消極的な － 積極的な	3.80(.823)	3.81(.981)	-.028
生意気な － 生意気でない	3.32(.978)	2.57(1.065)	4.908**
近づきがたい － 人懐っこい	3.40(.961)	3.68(.869)	-2.137*
恥ずかしがり － 恥知らず	3.23(.792)	3.89(.994)	-4.899**
慎重な － 軽率な	3.38(.738)	4.27(.832)	-7.557**
無責任な － 責任感の強い	2.66(.696)	2.16(.882)	4.224**
卑屈な － 堂々とした	3.50(.822)	3.57(.931)	-.548
感じの良い － 感じの悪い	2.77(.730)	3.11(.929)	-2.771**
無分別な － 分別のある	2.98(.797)	2.36(.803)	5.242**
親しみにくい － 親しみやすい	3.31(.801)	3.40(.858)	-.683
短気な － 気長な	3.13(.647)	2.88(.790)	2.331*
意欲的な － 無気力な	2.57(.805)	2.69(.968)	-.938
人の良い － 人の悪い	2.76(.667)	3.06(.859)	-2.665**
社交的な － 非社交的な	2.30(.783)	2.19(.795)	.930
自信のある － 自信のない	2.70(.737)	2.45(.720)	2.313*
かわいらしい － 憎らしい	2.85(.564)	3.10(.831)	-2.384*

**.p<0.01,*.p<0.05

＊項目は左から右で 5 段階で評価させた

Table 5 場面 B（勉強を教えてもらう場面）における t 検定の結果

	妥当性高 平均値(*SD*)	妥当性低 平均値(*SD*)	*t* 値
消極的な － 積極的な	4.15(1.049)	3.35(.955)	5.410**
生意気な － 生意気でない	4.28(.883)	2.27(.789)	16.180**
近づきがたい － 人懐っこい	3.68(.832)	3.06(.787)	5.216**
恥ずかしがり － 恥知らず	2.92(.960)	3.72(.777)	-6.179**
慎重な － 軽率な	2.31(.680)	3.88(.846)	-14.013**
無責任な － 責任感の強い	3.57(.773)	2.01(.711)	14.172**
卑屈な － 堂々とした	3.60(.796)	3.06(.938)	4.255**
感じの良い － 感じの悪い	2.22(.793)	3.52(.698)	-11.712**
無分別な － 分別のある	3.47(.944)	2.41(.726)	8.470**
親しみにくい － 親しみやすい	3.54(.910)	2.95(.718)	4.813**
短気な － 気長な	3.57(.799)	3.05(.572)	5.057**
意欲的な － 無気力な	1.61(.795)	3.27(.951)	-12.859**
人の良い － 人の悪い	2.22(.753)	3.26(.598)	-10.250**
社交的な － 非社交的な	2.31(.890)	2.53(.762)	-1.859
自信のある － 自信のない	2.94(.771)	2.71(.630)	2.192*
かわいらしい － 憎らしい	2.74(.524)	3.31(.637)	-6.644**

**.p<0.01,*.p<0.05

＊項目は左から右で５段階で評価させた

Table 6 場面 C（仕事の手伝いを頼む場面）における t 検定の結果

	妥当性高 平均値(*SD*)	妥当性低 平均値(*SD*)	*t* 値
消極的な － 積極的な	3.81(.914)	2.69(1.170)	7.163**
生意気な － 生意気でない	4.05(.734)	2.61(.845)	12.207**
近づきがたい － 人懐っこい	3.72(.666)	3.16(.821)	4.968**
恥ずかしがり － 恥知らず	2.93(.455)	3.44(.719)	-5.643**
慎重な － 軽率な	2.17(.857)	3.53(.899)	-10.436**
無責任な － 責任感の強い	3.73(.773)	1.92(.938)	14.194**
卑屈な － 堂々とした	3.40(.619)	2.98(.837)	3.786**
感じの良い － 感じの悪い	2.34(.776)	3.29(.812)	-8.068**
無分別な － 分別のある	3.47(.627)	2.77(.729)	6.931**
親しみにくい － 親しみやすい	3.73(.658)	3.12(.816)	5.533**
短気な － 気長な	3.29(.591)	2.94(.835)	3.256**
意欲的な － 無気力な	2.42(.807)	3.91(.851)	-12.057**
人の良い － 人の悪い	2.38(.785)	3.26(.722)	-7.841**
社交的な － 非社交的な	2.30(.753)	2.59(.906)	-2.338*
自信のある － 自信のない	3.12(.773)	3.15(.694)	-.340
かわいらしい － 憎らしい	2.71(.506)	3.23(.655)	-6.028**

**.p<0.01,*.p<0.05

＊項目は左から右で 5 段階で評価させた

Table 7 場面 D（就活に関する相談場面）における t 検定の結果

	妥当性高 平均値(*SD*)	妥当性低 平均値(*SD*)	*t* 値
消極的な － 積極的な	3.62(1.108)	2.74(1.119)	5.341**
生意気な － 生意気でない	4.04(.907)	3.12(.873)	7.018**
近づきがたい － 人懐っこい	3.76(.774)	3.29(.734)	4.161**
恥ずかしがり － 恥知らず	2.93(.722)	3.23(.588)	-3.106**
慎重な － 軽率な	1.91(.774)	3.19(.875)	-10.512**
無責任な － 責任感の強い	3.36(.853)	2.41(.773)	7.878**
卑屈な － 堂々とした	3.16(.846)	3.03(.519)	1.220
感じの良い － 感じの悪い	2.32(.741)	2.98(.668)	-6.316**
無分別な － 分別のある	3.51(.736)	2.88(.582)	6.343**
親しみにくい － 親しみやすい	3.64(.777)	3.26(.636)	3.667**
短気な － 気長な	3.41(.671)	3.10(.595)	3.227**
意欲的な － 無気力な	2.39(.938)	3.81(.964)	-10.159**
人の良い － 人の悪い	2.44(.761)	2.93(.527)	-5.026**
社交的な － 非社交的な	2.39(.755)	2.70(.687)	-2.897**
自信のある － 自信のない	3.58(.952)	3.30(.704)	2.237*
かわいらしい － 憎らしい	2.81(.550)	3.06(.494)	-3.253**

**.$p<0.01$,*.$p<0.05$

＊項目は左から右で 5 段階で評価させた

Table 8 場面 A（お金を借りる場面）援助要請妥当性高の因子分析結果

項目	1	2	共通性
【ポジティブ印象】 α＝.769			
生意気でない	**.713**	.106	.547
感じの良い	**-.680**	.268	.641
分別のある	**-.603**	.015	.540
人の良い	**-.562**	.352	.546
意欲的な	**-.552**	-.285	.455
人懐っこい	**.532**	.079	.458
社交的な	**-.454**	-.208	.374
親しみやすい	**.380**	.082	.232
【ネガティブ印象】 α＝.618			
恥知らず	-.087	**.594**	.362
堂々とした	.288	**.585**	.425
憎らしい	-.176	**.535**	.317
気長な	.191	**.469**	.282
積極的な	.089	**.412**	.186
軽率な	-.304	**.306**	.202
無責任な	.255	**-.272**	.163
負荷量の 2 乗和	2.911	1.949	
寄与率(%)	18.192	12.181	
累積寄与率(%)	18.192	30.373	

＊負荷がマイナスのものは逆転してある方の言葉で表記してある

Table 9 場面 A（お金を借りる場面）援助要請妥当性低の因子分析結果

項目	1	2	共通性
【ネガティブ印象 1】 α＝.716			
感じの悪い	**.752**	.165	.595
人の悪い	**.750**	-.088	.642
憎らしい	**.745**	-.051	.675
分別のない	**-.515**	-.150	.330
親しみにくい	**-.495**	.324	.355
近づきがたい	**-.355**	.293	.242
消極的な	**-.256**	.176	.159
生意気な	**-.224**	-.133	.068
【ネガティブ印象 2】 α＝.647			
恥知らず	.135	**.638**	.460
軽率な	.385	**.596**	.616
社交的な	.246	**-.532**	.344
自信のある	.247	**-.493**	.489
無責任な	-.453	**-.480**	.503
堂々とした	-.263	**.385**	.338
負荷量の 2 乗和	3.112	1.986	
寄与率(%)	19.448	12.412	
累積寄与率(%)	19.448	31.860	

＊負荷がマイナスのものは逆転してある方の言葉で表記してある

Table 10 場面 B（勉強を教えてもらう場面）援助要請妥当性高の因子分析結果

項目	1	2	共通性
【ポジティブ印象】 α = .818			
親しみやすい	**.731**	.158	.611
人懐っこい	**.714**	.313	.692
社交的な	**-.645**	-.355	.582
人の良い	**-.643**	.364	.548
感じの良い	**-.604**	.233	.420
分別のある	**.534**	-.447	.487
堂々とした	**.452**	-.130	.249
意欲的な	**-.443**	-.099	.211
かわいらしい	**-.438**	-.038	.197
生意気でない	**.435**	-.061	.200
気長な	**.393**	-.329	.265
積極的な	**.378**	.369	.291
【ネガティブ印象】 α = .394			
恥知らず	.375	**.567**	.611
軽率な	-.208	**.491**	.284
負荷量の 2 乗和	3.990	1.715	
寄与率(%)	24.939	10.716	
累積寄与率(%)	24.939	35.656	

＊負荷がマイナスのものは逆転してある方の言葉で表記してある

Table 11 場面 B（勉強を教えてもらう場面）援助要請妥当性低の因子分析結果

項目	1	2	共通性
【ポジティブ印象】 α＝.712			
感じの良い	**-.664**	.036	.481
慎重な	**-.658**	-.295	.694
かわいらしい	**-.581**	.225	.455
分別のある	**.548**	.069	.370
人の良い	**-.544**	.369	.518
恥ずかしがり	**-.535**	-.254	.363
親しみやすい	**.534**	-.304	.585
生意気でない	**.467**	.098	.268
責任感の強い	**.428**	.335	.296
【ネガティブ印象】 α＝.577			
非社交的な	-.029	**.522**	.274
消極的な	.086	**-.508**	.268
自信のない	.413	**.496**	.466
近づきがたい	.176	**-.444**	.345
卑屈な	.201	**-.306**	.136
負荷量の 2 乗和	3.143	1.755	
寄与率(%)	19.643	10.972	
累積寄与率(%)	19.643	30.614	

＊負荷がマイナスのものは逆転してある方の言葉で表記してある

Table 12 場面 C（仕事の手伝いを頼む場面）援助要請妥当性高の因子分析結果

項目	1	共通性
【ポジティブ印象】 α = .864		
感じの良い	**-.779**	.636
人の良い	**-.752**	.578
責任感の強い	**.743**	.580
親しみやすい	**.697**	.487
意欲的な	**-.659**	.440
分別のある	**.656**	.443
生意気でない	**.631**	.503
慎重な	**-.605**	.576
社交的な	**-.582**	.484
人懐っこい	**.508**	.260
気長な	**.423**	.181
かわいらしい	**-.324**	.109
積極的な	**.213**	.072
負荷量の 2 乗和	4.913	
寄与率(%)	30.707	
累積寄与率(%)	30.707	

＊負荷がマイナスのものは逆転してある方の言葉で表記してある

Table 13 場面 C（仕事の手伝いを頼む場面）援助要請妥当性低の因子分析結果

項目	1	共通性
【ポジティブ印象】 α = .861		
感じの良い	**-.813**	.667
人の良い	**-.741**	.550
分別のある	**.699**	.488
親しみやすい	**.691**	.501
かわいらしい	**-.671**	.462
生意気でない	**.589**	.450
慎重な	**-.569**	.352
意欲的な	**-.544**	.340
責任感の強い	**.543**	.337
人懐っこい	**.520**	.334
気長な	**.435**	.252
堂々とした	**.426**	.339
積極的な	**.415**	.173
社交的な	**-.399**	.242
自信のある	**-.248**	.088
負荷量の 2 乗和	5.016	
寄与率(%)	31.347	
累積寄与率(%)	31.347	

＊負荷がマイナスのものは逆転してある方の言葉で表記してある

Table 14 場面 D（就活に関する相談場面）援助要請妥当性高の因子分析結果

項目	1	共通性
【ポジティブ印象】 $\alpha = .848$		
人の良い	**-.766**	.597
感じの良い	**-.760**	.590
社交的な	**-.647**	.528
親しみやすい	**.619**	.422
分別のある	**.609**	.529
意欲的な	**-.587**	.424
人懐っこい	**.565**	.326
積極的な	**.520**	.451
責任感の強い	**.515**	.364
かわいらしい	**-.512**	.292
堂々とした	**.464**	.344
生意気でない	**.416**	.359
負荷量の 2 乗和	4.494	
寄与率(%)	28.090	
累積寄与率(%)	28.090	

＊負荷がマイナスのものは逆転してある方の言葉で表記してある

Table 15 場面 D（就活に関する相談場面）援助要請妥当性低の因子分析結果

項目	1	共通性
【ポジティブ印象】 $\alpha = .879$		
人の良い	**-.774**	.657
親しみやすい	**.677**	.502
分別のある	**.671**	.455
意欲的な	**-.666**	.511
堂々とした	**.645**	.473
責任感の強い	**.641**	.556
感じの良い	**-.632**	.429
人懐っこい	**.601**	.727
生意気でない	**.593**	.379
社交的な	**-.588**	.384
積極的な	**.576**	.406
慎重な	**-.564**	.681
かわいらしい	**-.506**	.328
負荷量の 2 乗和	5.546	
寄与率(%)	34.660	
累積寄与率(%)	34.660	

＊負荷がマイナスのものは逆転してある方の言葉で表記してある

2-2．被援助志向性の分析

回答者の被援助志向性の平均値・標準偏差を算出した（Table16）。

次に，主因子法・バリマックス回転による因子分析を行った(Table16)。その結果，「自分が困っている時，周りの人にはそっとしておいてほしい」「何事も他人に頼らず，自分で解決したい」「自分はよほどのことがない限り，人に相談することがない」の 3 項目以外は，先行研究の田村・石隈(2001)と同様に，「援助の欲求と態度(α=.803)」「援助関係に対する抵抗感の低さ(α=.700)」に分かれた。

Table 16 被援助志向性尺度の因子分析結果

	項目	平均値(*SD*)	1	2	共通性
【援助の欲求と態度】 α＝.803					
1	困っていることを解決するために，他者からの助言や援助が欲しい	4.20(.967)	**.764**	.150	.607
2	自分が困っている時には，話を聞いてくれる人が欲しい	4.33(.883)	**.748**	.141	.579
7	困っている事を解決する為に自分と一緒に対処してくれる人が欲しい	4.09(.901)	**.741**	.071	.554
8	他人の援助や助言は，あまり役に立たないと思っている	4.08(.991)	**.525**	.219	.324
11	自分が困っている時，周りの人にはそっとしておいてほしい	3.64(.999)	**.516**	.393	.421
4	今後も，自分の周りの人に助けられながら上手くやっていきたい	4.02(.862)	**.358**	.266	.199
【援助関係に対する抵抗感の低さ】 α＝.700					
6	他人からの助言や援助を受けることに抵抗がある	3.55(1.196)	.229	**.684**	.520
10	何事も他人に頼らず，自分で解決したい	3.23(1.247)	.412	**.601**	.531
3	自分は，人に相談したり援助を求める時，いつも心苦しさを感じる	2.61(1.182)	-.064	**.521**	.276
5	自分は，よほどのことがない限り，人に相談することがない	3.04(1.362)	.384	**.515**	.413
9	人は誰からでも相談や援助を求められたら，わずらわしく感じると思う	3.83(.954)	.126	**.325**	.121
因子負荷量の 2 乗和			2.753	1.791	
寄与率(%)			25.025	16.286	
累積寄与率(%)			25.025	41.311	

2-3．援助要請スタイルの分析

回答者の援助要請スタイルの平均値と標準偏差を算出した（Table17）。その結果，「悩みが深刻で，一人で解決できなくても，相談はしない」という項目でフロア効果（平均値1.96，標準偏差.974）が見られたため，この項目は排除して分析を進めた。

次に，主因子法・プロマックス回転による因子分析を行った(Table17)。その結果，先行研究の永井(2013)と同様に，「援助要請過剰型(α=.857)」「援助要請回避型(α=.843)」「援助要請自立型(α=.770)」の 3 因子に分かれた。

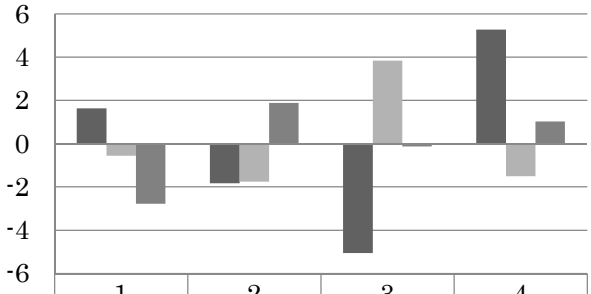
そして，各下位因子で合成得点化し，それぞれ「過剰型」「回避型」「自立型」と名付けた。過剰型の平均は 10.57，標準偏差は 3.964，回避型の平均は 6.70，標準偏差は 2.841，自立型の平均は 15.35，標準偏差は 2.774 であった。過剰型・回避型・自立型を用いて，クラスタ分析を行った結果，4 つのクラスタに分けられた(Table18)。それぞれの得点で 4 つのクラスタの平均値を求め，平均値からどれぐらい離れているかを計算しグラフを作成した(Figure1)。

Table 17 援助要請スタイルの因子分析結果

	項目	平均値(*SD*)	1	2	3	共通性
【援助要請過剰型】 α=.857						
7	比較的些細な悩みでも相談する	2.62(1.195)	**.983**	.133	.067	.864
10	困ったことがあったら，割とすぐに援助を求める	2.61(1.145)	**.833**	.000	-.059	.713
4	悩みを抱えたら，それがあまり深刻なものでなくても，相談する	2.57(1.157)	**.632**	-.089	.063	.444
1	よく考えれば大したことないと思えることでも，割と援助を求める	2.77(1.239)	**.628**	-.133	-.139	.518
【援助要請回避型】 α=.843						
9	悩みがどのようなものでも，最後まで自分一人で頑張る	2.24(1.071)	.077	**.911**	.076	.767
6	悩みは最後まで，自分一人でかかえる	2.36(1.238)	-.023	**.815**	.009	.677
3	困りごとが自分では解決できなくても援助を求めない	2.09(.939)	-.127	**.642**	-.177	.545
【援助要請自立型】 α=.770						
2	先に自分で試行錯誤し，行き詰ったら援助を求める	3.83(.952)	-.038	.012	**.772**	.604
8	先に自分で，いろいろとやってみてから相談する	3.72(.891)	.012	.131	**.735**	.528
5	少し辛くても自分で悩みに向き合い，それでも無理だったら相談する	3.69(.897)	-.033	-.053	**.625**	.408
11	困りごとが自分一人ではどうしようもなかった時は援助を求める	4.11(.864)	.029	-.171	**.563**	.371

Table 18 援助要請スタイルのクラスタ別平均得点(*SD*)

	第1クラスタ (n=48)	第2クラスタ (n=72)	第3クラスタ (n=23)	第4クラスタ (n=41)
過剰型	11.96(2.343)	8.49(2.270)	5.26(1.421)	15.59(1.746)
回避型	6.83(2.684)	5.63(1.707)	11.22(2.022)	5.88(2.551)
自立型	12.35(2.005)	17.01(1.561)	15.00(3.357)	16.15(1.865)



	1	2	3	4
■過剰型	1.635	-1.835	-5.065	5.265
■回避型	-0.56	-1.76	3.83	-1.51
■自立型	-2.7775	1.8825	-0.1275	1.0225

Figure 1 クラスタ分析の結果より各項目の平均値との差

2-4. 対人志向性の分析

対人志向性尺度の平均値と標準偏差を算出した（Table19）。

次に, 逆転項目を逆転し, 主因子法・バリマックス回転による因子分析を行った(Table19)。その結果，先行研究の斉藤・中村(1987)による下位尺度「人間関係志向性」の中の 9 項目の内 5 項目が，今回の因子分析では下位尺度「対人的関心・反応性」に 3 項目(「他人の感情や気持ちを考えることは意味がない」「他人事でも一喜一憂することが多い」「人から個人的な話を持ちかけられるのは煩わしいものだ」)が入っており，さらに下位尺度「個人主義傾向」に 2 項目(「仕事上の付き合いでは，個人的に親しくなることは重要ではない」「同じゲームをやるなら一人で出来るものよりも相手がいてできる者の方が良い」)が入っていたが,「対人的関心・反応性」「個人主義傾向」の項目はすべて，先行研究と同様に分かれて含まれていた。

Table 19 対人志向性尺度の因子分析結果

	項目	平均値(*SD*)	1	2	3	共通性
【対人的関心・反応性】 α=.819						
6	人からの批判が気になる	3.81(1.014)	.680	-.043	.309	.559
7	微笑みかけたり嫌な顔をする人が気にかかる	3.76(.981)	.667	-.089	.134	.471
1	他人の行動の動機を知ることに関心がある	3.86(.968)	.588	.034	.001	.347
5	人が私の行為についてどのように考えているかは重要ではない	3.87(.1.005)	.584	.201	.228	.433
4	他人の感情や気持ちを考えることは意味がない	4.09(.962)	.510	.421	.139	.450
3	人が本当はどんな人物であるかに関心がない	3.76(1.020)	.483	.218	.241	.339
2	他人事でも，一喜一憂することが多い	3.62(1.049)	.478	.157	.150	.275
16	自分と関わりのある人については，なるべくいろいろなことを知りたいと思う	3.77(.932)	.452	.349	.109	.338
18	人から個人的な話を持ちかけられるのは煩わしいものだ	3.86(.940)	.330	.276	.268	.257
【人間関係志向性】 α=.722						
9	人付き合いが良い方だと思う	3.09(1.105)	-.090	.713	.033	.518
15	日頃から人間関係を大事にしている	3.71(.934)	.066	.666	.150	.471
11	出会った人とは，できるだけ親密になろうと努力する	2.68(1.076)	.266	.547	.158	.395
17	自分にとって人間関係は煩わしいものである	3.58(1.088)	.175	.530	.311	.409
【個人主義傾向】 α＝.635						
10	自分は自分，他人は他人と割り切って物事を考える方である	2.80(1.114)	.276	-.102	.729	.618
12	あまり人のことには立ち入らない方である	2.74(.955)	.045	.150	.571	.351
8	仕事上の付き合いでは，個人的に親しくなることは重要ではない	3.49(1.126)	.241	.295	.496	.391
14	人のことには構わず，マイペースで行動する方である	2.67(1.077)	.152	.226	.408	.240
13	同じゲームをやるなら，一人でできるものよりも相手がいてできるものの方が良い	3.14(1.197)	.079	.149	.190	.065
	因子負荷量の 2 乗和		2.910	2.217	1.800	
	寄与率(%)		16.166	12.315	10.003	
	累積寄与率(%)		16.166	28.480	38.483	

3. 援助要請の妥当性と好感度・援助要請受け入れ可能性・援助要請可能性の関係

まず，それぞれの場面における援助要請妥当性と好感度・援助要請受け入れ可能性・援助要請可能性の平均値と標準偏差を算出した。

次に,援助要請の妥当性の高低によって,それぞれの項目に差があるのかを見るために,*t* 検定を行った。その結果，場面 D における援助要請可能性だけ $p<0.05$ で，それ以外は $p<0.01$ で有意な差が見られた(Table20)。

そして，妥当性と好感度・援助要請受け入れ可能性・援助要請可能性の相関を見たところ，全ての場面において，全ての間において $p<0.01$ で正の相関が見られた。(Table21～24)

Table 20 妥当性高低と好感度・援助要請受け入れ可能性・援助要請可能性の t 検定結果

	妥当性	場面 A			場面 B			場面 C			場面 D		
		好意度	援助要請受け入れ可能性	援助要請可能性	好意度	援助要請受け入れ可能性	援助要請可能性	好意度	援助要請受け入れ可能性	援助要請可能性	好意度	援助要請受け入れ可能性	援助要請可能性
平均値 (*SD*)	高	3.26 (.739)	.4.26 (.984)	3.85 (1.260)	3.83 (.787)	.4.68 (.489)	4.29 (.873)	3.86 (.671)	4.30 (.869)	4.34 (.862)	3.68 (.785)	4.44 (.675)	3.89 (1.209)
	低	2.68 (.926)	3.51 (1.341)	2.16 (1.405)	2.53 (.807)	3.58 (1.035)	3.47 (.150)	2.58 (.907)	3.65 (1.056)	3.41 (1.111)	3.05 (.796)	3.97 (.988)	3.51 (1.135)
t 値		4.589	4.248	8.518	10.976	7.132	5.473	10.741	4.516	6.272	5.419	3.837	2.167

Table 21 場面 A の援助要請の妥当性と好感度・援助要請受け入れ可能性・援助要請可能性の相関

	援助要請の妥当性	好感度	援助要請受け入れ可能性	援助要請可能性
援助要請の妥当性	-	.582**	.579**	.649**
好感度		-	.518**	.473**
援助要請受け入れ可能性			-	.542**
援助要請可能性				-

**. $p<0.01$

Table 22 場面 B の援助要請の妥当性と好感度・援助要請受け入れ可能性・援助要請可能性の相関

	援助要請の妥当性	好感度	援助要請受け入れ可能性	援助要請可能性
援助要請の妥当性	-	.745**	.555**	.491**
好感度		-	.543**	.494**
援助要請受け入れ可能性			-	.483**
援助要請可能性				-

**. $p<0.01$

Table 23 場面 C の援助要請の妥当性と好感度・援助要請受け入れ可能性・援助要請可能性の相関

	援助要請の妥当性	好感度	援助要請受け入れ可能性	援助要請可能性
援助要請の妥当性	-	.738**	.586**	.652**
好感度		-	.486**	.532**
援助要請受け入れ可能性			-	.464**
援助要請可能性				-

**. $p<0.01$

Table 24 場面 D の援助要請の妥当性と好感度・援助要請受け入れ可能性・援助要請可能性の相関

	援助要請の妥当性	好感度	援助要請受け入れ可能性	援助要請可能性
援助要請の妥当性	-	.668**	.607**	.409**
好感度		-	.452**	.342**
援助要請受け入れ可能性			-	.407**
援助要請可能性				-

**. $p<0.01$

4. 被援助志向性と対人志向性，援助要請スタイルの関係

まず，被援助志向性尺度と対人志向性尺度について，逆転項目を逆転した後，各下位尺度の合計得点を求めた。そして，被援助志向性の各下位尺度得点と対人志向性の各下位尺度得点と過剰型・回避型・自立型について，相互に相関を見た(Table25)。その結果, ほとんどの被援助志向性の各下位因子得点と対人志向性の各下位因子得点と過剰型との間に正の相関，回避型との間に負の相関が見られた。それに対して，対人志向性の下位尺度「関係志向性」と過剰型の間，全ての項目と自立型の間には相関が見られなかった。

Table 25 被援助志向性得点と対人志向性と過剰型と回避型と自立型の相関

	被援助志向性得点	対人志向性得点	過剰型	回避型	自立型
被援助志向性得点	-	.422**	.460**	-.658**	.050
対人志向性得点		-	.277**	-.378**	.114
過剰型			-	-.361**	-.139
回避型				-	-.142
自立型					-

**. $p<0.01$

5. 援助要請受け入れ可能性・援助要請可能性と被援助志向性・対人志向性・援助要請スタイルの関係

それぞれの場面ごと(妥当性の高低別)に，その状況を回答者自身に置き換えた場合の，援助要請可能性と援助要請受け入れ可能性について検討した。回答者自身の被援助志向性の下位尺度得点と対人志向性の下位尺度得点，援助要請スタイルが，援助要請受け入れや要請可能性にどのように影響しているか確認するため，相関を調べた結果を Table26 に示した。

場面 A においては，妥当性高の時，要請可能性・要請受け入れ可能性と被援助志向性の各下位因子・「関心・反応性」「個人主義傾向」との間に正の相関，回避型との間に負の相関が見られ，妥当性低の時はほとんど相関が見られなかった。

場面 B においては，妥当性高の時，要請可能性と被援助志向性の各下位因子得点・「関心・反応性」・過剰型との間に正の相関，回避型との間に負の相関が見られ，妥当性低の時，要請可能性と回避型との間に負の相関が見られた。

場面 C においては，妥当性高の時，要請受け入れ可能性と「援助の欲求と態度」「関心・反応性」との間に正の相関，要請可能性と被援助志向性の各下位因子得点・「個人主義傾向」との間に正の相関，回避型との間に負の相関が見られ，妥当性低の時，要請受け入れ可能性と「関係志向性」との間に正の相関，要請可能性と過剰型との間に正の相関，自立型との間に負の相関が見られた。

場面 D においては，妥当性高の時，要請受け入れ可能性と自立型の間に正の相関，要請可能性と「援助の欲求と態度」・「関心・反応性」「個人主義傾向」・過剰型との間に正の相関，回避型との間に負の相関が見られ，妥当性低の時，ほとんど相関が見られなかった。

Table 26 援助要請受け入れ可能性・要請可能性と被援助志向性・対人志向性・援助要請スタイルの相関

場面		援助の欲求と態度	抵抗感の低さ	関心・反応性	関係志向性	個人主義傾向	過剰型	回避型	自立型
場面A妥当性高	要請受け入れ可能性	.388**	.265*	.244*	.181	.256*	.050	-.228*	.065
	要請可能性	.248**	.346**	.046	.136	.317**	.194	-.346**	.175
場面A妥当性低	要請受け入れ可能性	.107	.103	.024	.084	.200*	.132	.060	.047
	要請可能性	-.004	-.005	-.116	.144	-.033	.022	.025	-.088
場面B妥当性高	要請受け入れ可能性	.142	.017	.162	.072	-.063	-.146	-.046	.225*
	要請可能性	.428**	.346**	.316**	.148	.127	.200*	-.306**	-.045
場面B妥当性低	要請受け入れ可能性	.181	.116	.060	-.032	-.086	-.111	-.160	.189
	要請可能性	.078	.229*	-.114	.156	.180	-.017	-.319**	.162
場面C妥当性高	要請受け入れ可能性	.267*	.117	.279**	.039	.120	-.071	-.126	.028
	要請可能性	.360**	. 311**	.193	.090	.295**	.072	-.410**	.193
場面C妥当性低	要請受け入れ可能性	.162	.057	.139	.309**	-.002	-.026	-.043	.119
	要請可能性	.223*	-.006	.136	-.068	.166	.251*	-.042	-.346**
場面D妥当性高	要請受け入れ可能性	.073	.008	.183	.054	-.059	-.112	-.080	.425**
	要請可能性	.382**	.156	.222*	.105	.214*	.247*	-.318**	-.129
場面D妥当性低	要請受け入れ可能性	.077	.073	.095	-.096	-.031	-.069	-.083	-.005
	要請可能性	.043	.093	.114	-.188	.073	.171	-.251*	.006

*. $p<0.05$　**. $p<0.01$

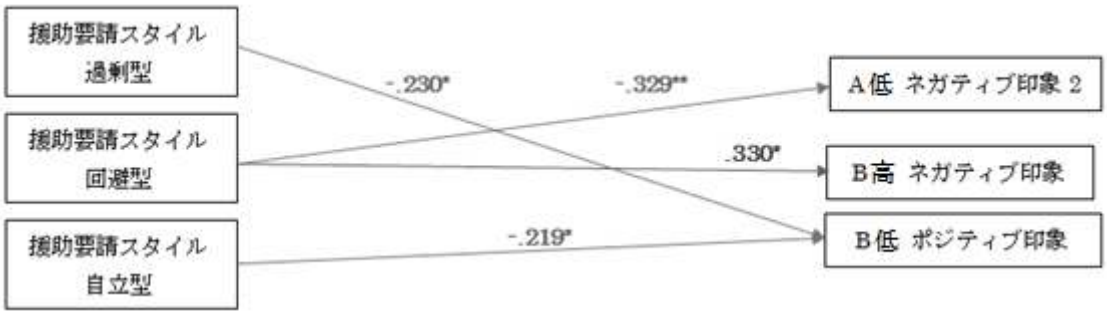
6. 印象評価と援助要請スタイル・被援助志向性・対人志向性の関係

援助要請者に対する印象評価が，回答者自身の援助要請スタイルからどのような影響を受けているのか確認するために，印象評価尺度のそれぞれの場面・援助要請の妥当性の高低における下位因子を従属変数，援助要請スタイルのクラスタ分析結果を独立変数とし，分散分析を行った。

その結果，信頼性の低く採用しなかった場面 C 妥当性高の因子 2 だけで有意な差が見られた(F=2.894，p<.0.05)。つまり，印象評価と援助要請スタイルとの間にほとんど関係がないということが分かった。

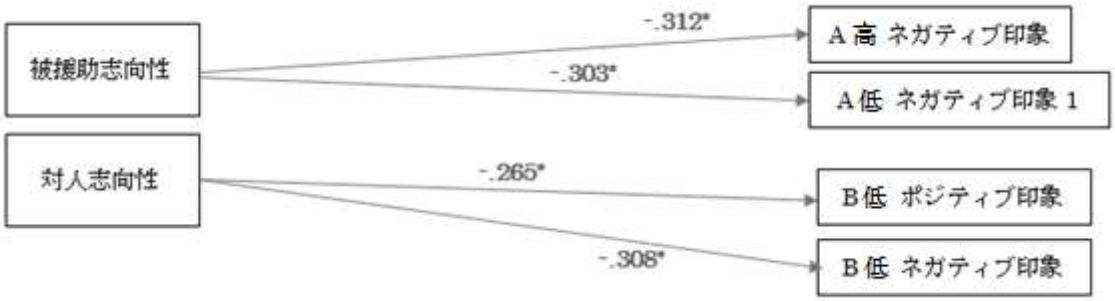
次に，それぞれの印象評価尺度の下位因子を従属変数，被援助志向性得点，対人志向性得点，援助要請スタイルの過剰型・回避型・自立型を独立変数とし，重回帰分析を行った。

その結果，場面 A 妥当性高の「ネガティブ印象」は被援助志向性得点(β=-.312，p<0.05)から，場面 A 妥当性低の「ネガティブ印象 1」は被援助志向性得点(β=-.303，p<0.05)から，場面 A 妥当性低の「ネガティブ印象 2」は回避型(β=-.329，p<0.05)から，場面 B 妥当性高の「ネガティブ印象」は回避型(β=.330，p<0.05)から，場面 B 妥当性低の「ポジティブ印象」は対人志向性得点(β=-.265，p<0.05)と過剰型(β=-.230，p<0.05)と回避型(β=-.219，p<0.05)から，場面 B 妥当性低の「ネガティブ印象」は対人志向性得点(β=-.308，p<0.05)から説明されることが分かった。(Figure2, Figure3) 場面 C・場面 D においては，信頼性が低く採用しなかった下位因子においてのみ，過剰型から説明されていた。その下位因子には必ず「恥ずかしがり」という項目が含まれていた。



**=p<0.01,*=p<0.05

Figure 2 援助要請スタイルと印象評価の下位尺度との関係



**=p<0.01,*=p<0.05

Figure 3 被援助志向性・対人志向性と印象評価の下位因子との関係

【考察】

本研究は,「助け合い」の中の「援助されること」に着目し，援助要請する人に対する印象評価がどのようなものなのか検討し, その際, 援助要請者側の要因である援助要請内容・援助要請の妥当性, 評価する側(第 3 者の立場としての評価者)の要因の援助要請スタイル・被援助志向性・対人志向性といったパーソナリティ変数が印象評価にどのような影響を与えているか検討したものである。

1．援助要請の妥当性と印象評価との関係について

まず，質問紙上で設定したそれぞれの想定場面において，そこでの援助要請者の行動がどのように評価されるのか検討した。

それぞれの場面ごとに印象評価項目を因子分析した結果より，どの場面においても，その場面での援助要請の妥当性の高低によって一定の差が見られた。各因子の中で，援助要請の妥当性低の状況において得点が高かったのは,「人懐っこい」「恥知らず」「軽率な」「感じの悪い」「無気力な」「人の悪い」「憎らしい」といった項目であった。これらの項目のほとんどが，印象形成における基本的 3 次元に照らせば「個人的親しみやすさ」に分類され(大橋ら，1973),「人懐っこい」を除くと，得点が高かった項目はすべてネガティブな印象にあたるものである。その場面で援助要請の妥当性が低いと判断される時（一般には，その場面での援助要請があまり正当性を持つとは思われないとき)，印象評価としては,「個人的親しみやすさ」で括られる印象のなかで，ネガティブな方向の親しみやすさ，つまり思慮深くない軽率な行動としてとらえられてしまうということが考えられる。援助要請行動についていえば，その援助要請行動に妥当性があるのかといった判断が一つの判断基準になっていると考えられる。これは仮説 1 を一部支持する結果であった。

2．場面ごとの印象評価について

質問紙上の想定場面の種類によって，援助要請の妥当性高低による印象評価の因子分析結果（一般的な印象評価の傾向の確認）を踏まえて，さらに印象評価と被援助志向性・対人志向性・援助要請スタイルとの関係の結果（回答者自身のパーソナリティ変数による印象評価傾向の確認）について考察する。以降，場面ごとに分けて考察する。これは,「仮説 2：援助要請の状況や内容によって，形成する印象評価の観点が異なる」に関する考察で

ある。

2-1. 場面 A：お金を借りるについて

場面 A は，お金を借りるという場面であったが，状況設定を簡潔に説明すると以下の通りである。

援助要請の妥当性高の場面：大学の前期開講に合わせて教科書購入が必要な場面で，初回時に買い忘れていることを思い出して買いに行き，教科書を買うために友人にお金を貸してほしいと援助要請する場面。

援助要請の妥当性低の場面：大学の前期開講に合わせて教科書購入が必要な場面で，初回時に買い忘れていることを思い出して買いに行ったが，マンガを買いたくなり，そのために友人にお金を貸してほしいと援助要請する場面。

場面 A では，「積極的な」「堂々とした」「親しみやすい」「無気力な」「非社交的な」といった項目においては，援助要請の妥当性の高低に関係なく，特に差は見られなかった（Table4）。これらの項目はほとんどが，対人認知の基本 3 次元における「活動性」に分類される(大橋ら，1973)ものである。これは場面 A の文説明章において，「活動性」に関する印象評価の判断となるものが乏しかったこと，援助要請の妥当性高の場面も妥当性低の場面も，「「モノを買うために」お金を借りる」という明確な積極的理由があったために，援助要請の妥当性という観点には左右されなかったことが考えられる。

次に，場面 A における印象評価の因子分析結果（Table8）を見ると，援助要請妥当性高の時には，ポジティブな印象もネガティブな印象も形成しているが、妥当性低の時にはネガティブな印象しか形成していない。野崎・石井(2004)は，お金を借りるという援助要請を「貴重な資源の提供を求める援助要請行動」に分類しており，「貴重な資源の提供を求める援助要請行動」は他の援助要請行動に比べて，「自尊心への脅威」が高い。つまり他者からの評価を強く意識する行動であり，通常は援助要請行動に抑制がかかると考えられる。そのような場面であえて「お金を貸してくれ」との援助要請は，それを観察する第 3 者においても「お金を借りる」という行為が自尊心への脅威をもたらすということを認識していると考えられる。そのため，そのような行動をした人に対しては，援助要請の妥当性が高い場合でもネガティブな印象を形成するのだと考えられる。さらに，援助要請の妥当性の低い時には，ネガティブな印象しか形成しないと考えられる。

2-2．場面 B：勉強を教えてもらうについて

場面 B は，勉強を教えてもらうという場面であったが，状況設定を簡潔に説明すると以下の通りである。

援助要請の妥当性高の場面：数学の授業において，真面目に授業を受けていたが理解できなかったため，休み時間に友達に対して，その内容について教えてほしいと援助要請する場面。

援助要請の妥当性低の場面：数学の授業において，他ごとをしていて話を聞いていなかったため，理解できない部分があり，休み時間に友達に対して，その内容について教えてほしいと援助要請する場面。

場面 B においては，援助要請の妥当性高低による印象評価の差については，「非社交的な」という項目のみで見られなかった（Table5）。つまり，「勉強を教えてもらう」という日常的な場面では，印象評価に対して，その妥当性が大きく影響してくることがわかる。

有意差が見られなかった「非社交的な」という項目は妥当性の高低に関わらず，低い得点となっていた。つまり，援助要請者に対して「社交的」であるという印象を持ったということである。これは，友達に対して「勉強を教えて」と話しかけることができるという部分に対する印象なのではないかと考えられる。

次に，場面 B における印象評価の因子分析の結果（Table9）を見ると，援助要請の妥当性の高低に関係なく，ポジティブな印象もネガティブな印象も形成しているということがわかる。「勉強を教えて」という援助要請は「日常のちょっとした困窮場面における援助要請行動」に分類される(野崎・石井，2004)ことから，大学生において「勉強を教えて」という援助要請場面を見る機会は他の援助要請場面よりも多く，自分の考えなどを反映させた印象を形成しやすかったために，ポジティブな印象の下位因子とネガティブな印象の下位因子が見られたのではないかと考える。

2-3．場面 C：仕事の手伝いを頼むについて

場面 C は，仕事の手伝いを頼むという場面であったが，状況設定を簡潔に説明すると以下の通りである。

援助要請の妥当性高の場面:大規模なサークルの食事会が行われることが決まっており，幹事として開催する店を決めなければならないが，食事会ができそうな店を知らないため，友達に一緒に探してほしいと援助要請する場面

援助要請の妥当性低の場面:大規模なサークルの食事会が行われることが決まっており，幹事として開催する店を決めなければならないが，面倒くさいため，友達に一緒に探してほしいと援助要請する場面。

場面 C において，援助要請の妥当性高低による印象評価の差は，「自信のない」という項目を除いて，他の項目はすべて有意差が見られた（Table6）。つまり、仕事の手伝いを頼む場面においても，印象評価に対して，その要請の妥当性が大きく影響してくるということがわかる。

有意差が見られなかった「自信のない」という項目は，援助要請の妥当性高低に関わらず，平均値は 5 段階評価の「3」に近かったことから，「自信があるかどうか」ということについては文面において判断しづらかったのではないかと考えられる。

次に，印象評価の因子分析の結果（Table10）を見ると，援助要請の妥当性の高低によって形成される印象に大きな違いは見られなかった。つまり，「仕事の手伝いを頼む」という援助要請に対しては，今回の回答者においては同じような印象評価をしていることがわかった。援助要請の妥当性高の場面も妥当性低の場面も，同じ仕事内容を用いて印象評価をさせたため，仕事内容が一つの判断基準となり，形成された印象評価が類似したもの（あまり違いの無い印象）になったのではないかと考える。

2-4．場面 D：就活相談について

場面 D は，就活の相談にのってもらうという場面であったが，状況設定を簡潔に説明すると以下の通りである。

援助要請の妥当性高の場面：就職について積極的に考えていた時に，就職希望調査が行われ，就職についてはっきりさせなければならなくなったため，客観的な意見を得るために，友達に相談にのってほしいと援助要請する場面。

援助要請の妥当性低の場面：就活について消極的に考えていた時に，就職希望調査が行われ，就職についてはっきりさせなければならなくなったが，面倒くさくなり友達にどのように調査に答えたか聞くために，相談にのってほしいと援助要請する場面。

場面 D における印象評価の妥当性高低による差は，「堂々とした」という項目を除いて，他の項目はすべて有意差が見られた（Table7）。つまり，就活相談という場面でも，印象評価に対して，その妥当性が大きく影響してくるということがわかった。

有意差が見られなかった「堂々とした」という項目は，妥当性高低に関わらず，平均値は 5 段階評価の「3」に近かったことから，堂々としているかどうかを文面において判断しづらかったのではないかと考えられる。

次に，印象評価の因子分析結果（Table11）を見ると，援助要請の妥当性高低によって形成される印象の差は見られなかったが，下位因子のなかの項目を見ていくと，援助要請の妥当性高の場面においてのみ，第 1 因子の中で「非社交的な」という項目が上位に来ている。負の値で出ているため，「社交的な」という印象を形成したということであるが，これは，妥当性高の場面では，援助要請理由として，「客観的な意見を聞いてみたい」ということが想定場面内にあり，客観的視点を意識して，他者と交流することができる「社交的な」人であると印象づけられたのではないかと考える。

3．被援助志向性，援助要請スタイル，対人志向性が印象評価に及ぼす影響について

回答者が，第 3 者的な立場で援助要請行動を見た場合に，援助要請者に対してどのような印象評価をするのか，それが回答者のパーソナリティの影響が関連するのかどうか検討した。これは仮説 3 : 援助要請スタイルによって，援助要請者に対する印象評価は異なる，という点について検証するものである。

3-1．被援助志向性と対人志向性と援助要請スタイルの関係

被援助志向性と対人志向性について，因子分析結果（Table16，Table19）より，先行研究（田村ら(2001)，斉藤ら(1987)）と同様の下位因子が見られた。これらの下位因子と援助要請スタイルの下位因子のそれぞれの相関を見た結果，被援助志向性と対人志向性と援助要請スタイル過剰型についてはほとんどの下位因子にいて正の相関，同スタイル回避型との間には負の相関が見られた。これらのことより，他者に興味・関心を強く持っている人は，他者に助けられることについてネガティブなイメージは持たないということ，そして，援助要請もよくする（可能性が高い）ということがわかった。ただ，対人志向性の「関係志向性」という下位因子と援助要請スタイル過剰型との間に相関が見られなかったのは，他者との関係を良いものにしようとする時には，他者から助けられることばかりではいけないと考えるからではないかと考える。また，援助要請スタイル自立型との相関が見られなかったことについては，今回の回答者においては，自立型の得点が全体的に高かったことや，対人志向性における「他者への興味・関心」が，他者への適度な援助要請ができるようになることとは，特段の関係がなかったということから説明できるのではないかと考

える。

3-2. 被援助志向性および対人志向性と援助要請の可能性および要請受け入れ可能性との関係

質問紙上の想定場面ごと，援助要請の妥当性の高低別に相関を見た結果（Table26），主に，援助要請の妥当性の低い時は被援助志向性や対人志向性との相関が見られなかった。つまり，援助要請を受け入れるか，その援助要請をするかという判断は，印象を評価する側の要因より，評価される側の要因の方が大きく影響してくると考えられる。また，援助要請の妥当性の高い時に被援助志向性の各下位因子と要請可能性との間に正の相関が見られたのは，被援助志向性が援助要請行動に対して弱い正の影響が見られたという先行研究(雨宮・松田，2015)と同じ結果であり，被援助志向性は単に心理的状態ということではなく（誰かに助けてもらいたいという意思や気持ちのレベルだけでなく），実際の行動まで示唆するものだと考えられる。

3-3. 被援助志向性および対人志向性と印象評価との関係

被援助志向性および対人志向性と印象評価について，被援助志向性・対人志向性それぞれの下位因子と印象評価尺度の各場面における下位因子とで分析を行った結果，関係は見られなかった。そのため，被援助志向性と対人志向性については全体の合計を得点化して再度分析を行った結果，場面 A においてのみ被援助志向性が，場面 B の妥当性低においてのみ対人志向性が，どのような印象を形成するかを説明していた。つまり，援助要請をしている人をどのように評価するかと，被援助志向性と対人志向性はほぼ関係がないと考えられる。しかし，被援助志向性と対人志向性との関連が見られている援助要請スタイルと印象評価は一部関連が見られていることから，完全にないとは言い切れないだろう。

3-4. 援助要請スタイルのクラスタ分析結果について

援助要請スタイル尺度のクラスタ分析結果（Table18）より，第 1 クラスタはどの得点も突出していない平均型，第 2 クラスタは自立傾向，第 3 クラスタは回避傾向，第 4 クラスタは過剰傾向であると解釈できる。

自立型の得点はどのクラスタでも高く，回避型の得点が高い人が所属する第 3 クラスタの人数が少なかった。また，被援助志向性得点と援助要請スタイルの各得点との相関は自立型で見られなかった。これは調査対象が大学生であったからだと考えられる。大学生は

青年期後期であり，アイデンティティも確立してきている時期である。そのため，援助要請スタイルも自立傾向にあるのではないかと考える。

3-5．援助要請スタイルと援助要請受け入れ可能性・要請可能性との関係

場面 A 以外の場面において，要請可能性と過剰型との間に正の相関が，要請可能性と回避型との間に負の相関が見られたことより，野崎ら（2004）の援助要請行動のカテゴリーの「貴重な資源の提供を求める援助要請行動」においては，援助要請をするかどうかは自分の援助要請スタイルによらず,「日常のちょっとした困窮場面における援助要請行動」「心的サポート」においては，自分の援助要請スタイルが大きくかかわってくるということがわかった。これは,「貴重な資源の提供を求める援助要請行動」は自尊心への脅威と心理的負債感が高いため，自分の援助要請スタイル以外の要因が大きくかかわってくるからだと考える。

3-6．援助要請スタイルと印象評価との関係

最終的に，仮説 3 を検討するために，各場面における印象評価の下位因子を従属変数にして，援助要請スタイルのクラスタを独立変数にした分散分析結果と，印象評価と援助要請スタイルの過剰型・回避型・自立型を説明変数にして，印象評価の下位因子を目的変数とした重回帰分析の結果（Figure1，Figure2）より考察する。

場面 A では，援助要請妥当性低の「ネガティブ印象」は援助要請スタイル回避型から説明されることがわかった。「ネガティブ印象」は「恥知らず」「非社交的な」「自信のない」「堂々とした」といった基本 3 次元の「活動性」に分類される項目が多く含まれており，援助要請スタイルが回避型の傾向がある人ほど,「活動性」次元での印象を形成したということである。援助要請スタイルが回避型の人は，本来あまり援助要請することがなく，特に「お金を借りる」という自尊心への脅威が懸念される行為(野崎ら，2004)をすることが「活動的」次元での評価（そのなかでのネガティブな評価）につながっており，他者に対しても，そのような印象を形成したのではないかと考えられる。

場面 B では，援助要請妥当性高の場面において，援助要請スタイルが回避型の傾向が強いと援助要請者に対してネガティブな印象を形成し,援助要請妥当性低の場面においては,やはり援助要請スタイルが過剰型または回避型の傾向が強いと援助要請者に対するポジティブな印象は抑制される。自分自身が援助要請行動に対して回避的であると，他者の援助要請に対しても，何故回避しないのかと思い，回避しなかったことがネガティブな印象に

つながると考えられる。また，自分自身が援助要請行動に対して過剰的であると，自分の援助要請スタイルよりも援助要請の妥当性が印象評価に大きく影響し，ポジティブな印象が抑制されるのではないかと考えられる。

場面 C および場面 D において, 下位因子における信頼性は低かったが,「恥ずかしがり」という項目が含まれる下位因子と過剰型とのパスが有意であり, 援助要請をよくする人（過剰型）は援助要請をしないのは羞恥心があるからだとの印象を形成する（そういう風に考えている）傾向があるのではないかと考えられる。

以上のことから，仮説 3 は，回答者の援助要請スタイルによって印象の形成の仕方が異なると言った普遍的な説明ができなかった。援助要請場面のなかの援助要請内容によって異なったため, すべてにおいて支持されたとはいえず, 一部支持されたということになる。

【本研究の課題と展望】

「助け合い」の中の「援助されること」に着目し，援助要請する人に対する印象評価がどのようなものなのか検討し，その際，援助要請者側の要因である援助要請の内容，援助要請の妥当性，評価する側(第 3 者の立場としての評価者)の要因のである調査回答者の援助要請スタイル，被援助志向性，対人志向性などが，援助要請者に対して形成される印象評価に影響を及ぼすのかどうかに着目して検討したものであった。本研究から，反省点として，いくつかの課題が見つかったので，ここに記述しておく。

今回は，援助要請場面の要請内容についてはオリジナルのものを考えた。これは，大学生によくありそうな困窮状況から選択し，自分でストーリーを作成したが，それぞれの援助要請場面が，どのような状況を代表し，また 4 種類の場面がどのように異なるのかということについて普遍的な説明ができるわけではなかった。一般的によくある場面というだけであり，心理学的な意味合いにおいて場面間の差異が説明できず，また援助要請場面のカテゴリーに基づいたものではなかった。したがって，援助要請の内容の違いがどこからくるものなのか，回答者がその内容の違いをどこにどう感じるのか，といったことまでは事前に十分には考えられていなかった。よって，援助要請内容の違いについての心理学的な説明を明確にして，検討していく必要があるだろう。

また，今回の調査対象者においては，分析結果より，援助要請スタイルの自立型得点が全体的に高く，回避型得点が低かった。要するに，援助要請スタイルとして「自立型」の回答者が多かったということである。必ずしも３つの援助要請スタイルにきれいに分かれることを期待していたわけではないが，援助要請スタイルの偏りがあったということは否めない。「回避型」や「過剰型」の人がどのような印象評価判断をするのかという部分についての十分な知見は得られなかった可能性がある。これは調査対象者が全員大学生であり，青年期後期にある人であったことが原因ではないかと考えられる。あるいは，一般的に，援助要請をする前にできるだけ自力解決を目指す志向性が高く，他者に頼るよりも自分で努力することの方が価値が高いと判断されることからも，多くが「自立型」に入ってしまう結果になった可能性もある。

3 点目は，今回は援助要請場面を文章で呈示し，それに対して印象を評価させた点を挙げておく。これは，例えば映像刺激などにして提示するとなると，援助要請者の外見や話し方からの印象などに左右される可能性が高まり，他要因が入り込んでくる可能性が大いに考えられたため，印象評価に対する剰余変数の影響を除外するための措置であったが，

実際には，援助要請者の印象を評価する際には，その場での生身の相手との直接的なコミュニケーションである場合が多いわけで，外見などの要因も聞いてくるであろう。より一般性を高めるためには，援助要請者の印象評価をする際に関わってくる要因にはどのようなものがあるのかを検討し，また違った形で印象評価をさせる必要もあるだろう。

最後に，今回は，援助要請場面を文章呈示して，第 3 者的立場から印象を形成してもらうという手続きを取ったわけであるが，これは，先行研究の多くが，援助者あるいは被援助者（＝援助要請者）の立場で回答させるという設定で調査等が行われており，必ずしも当事者ではないのに，あたかも当事者のように（当事者としてなら，ということで）回答を求めているのに対して，純粋に第 3 者の立場で回答を求めたということを主旨としているからである。実際に，他人が他人を援助する，他人が他人に援助を求めるといった場面はよく見る。したがって，第 3 者がそういう場面をいったいどのように見ているのか，といったことに主眼をおいて検討してきたし，そこに本研究の特徴があることを示したかった。しかしながら，その部分のこだわりは，果たして，当事者のように回答させてきた先行研究の手続きとどのような相違があったのか，明確な相違はここだということを上手く説明できたのかどうか残念ながら不明である。この点については，純粋な第 3 者的な立場でものを見る場合の視点の特性や，はたまたバイアスといった認知的な観点からも検討が必要であったと考えている。

【引用文献】

雨宮千沙都・松田英子(2015). 大学生の家族および友人への援助要請行動に被援助志向性,ソーシャルサポート,その他の心理的変数が及ぼす影響　江戸川大学紀要(25),159-165

遠藤野ゆり(2015). ミラーニューロンをめぐる研究動向の検証 ： 神経細胞水準からみる「他者」の色合いの解明に向けて　生涯学習とキャリアデザイン 12(2), 37-46

後藤綾文・川島一晃(2014). 援助要請行動頻度とその結果としての情動反応―対処努力と本来感との関連―　日本教育心理学会第 56 回

原田克己・出雲麻佑(2008). 賞賛獲得欲求・拒否回避欲求が援助要請行動とその抑制要因に与える影響　金沢大学教育学部紀要　教育科学編 57, 45-56

林文俊・大橋正夫・廣岡秀一（1983). 暗黙裡の性格観に関する研究（Ｉ）−個別尺度法によるパーソナリティ認知次元の抽出−　実験社会心理学研究, 23, No.1, 9-15

廣岡秀一(1984).対人認知構造に及ぼす状況要因の効果　日本心理学会第 48 回大会発表論文集, 632

水野治久・石隈利紀(1999). 被援助志向性・被援助行動に関する研究の動向　教育心理学研究, 47, 530-539

文部科学省(2008). 学習指導要領

永井智(2013). 援助要請スタイル尺度の作成―縦断調査による実際の援助要請行動との関連から―　教育心理学研究 61, 44-55

野崎秀正・石井眞治(2004). 抑制要因に基づく大学生の援助要請行動の分類　広島大学大学院教育学研究科紀要 53, 49-54

大橋正夫・三輪弘道・平林進・長戸啓于(1973). 写真による印象形成の研究(2)―印象評定のための尺度項目の選定―　名古屋大学教育学部紀要　教育心理学科 20, 93-102

奥野洋子(2008).「援助すること」と「援助されること」―対人援助関係の二重性―　近畿大学臨床心理センター紀要(1), 65-73

斎藤和志・中村雅彦(1987). 対人志向性尺度作成の試み　Bulletin of the Faculty of Education, Nagoya University(Educational Psychology),34,97-109

坂香里・山村麻予・真下知子・三宮真智子(2013). 大学生における困窮事態の研究(1)：自由記述を通して　日本教育心理学会総会発表論文集(55),200

田村修一・石隈利紀(2001). 指導・援助サービス上の悩みにおける中学生教師の被援助志向性に関する研究：バーンアウトとの関連に焦点をあてて　教育心理学研究, 49(4), 438-448, 2001

田村修一・石隈利紀(2006). 中学校教師の被援助志向性に関する研究―状態・特性被援助志向性尺度の作成および信頼性と妥当性の検討―　教育心理学研究 54, 75-89

高木修（1997). 援助行動の生起過程に関するモデルの提案 関西大学社会学部紀要,29, 1 -21.

【謝辞】

卒業論文の執筆にあたり，多くの方々からご協力いただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

研究を進めるにあたって，松浦均先生には手厚くご指導いただきまして，ありがとうございました。研究テーマの設定から，論文作成までお世話になりました。私がやりたいことについて上手く伝えられない時も丁寧に聴いてくださり，この研究が良いものになるよう沢山の助言をくださったおかげで，研究をやり遂げることができたと思います。ありがとうございました。

また，本調査の実施にあたり，授業時間をいただき，大学生に協力をしていただきました。ありがとうございました。

最後に，教育心理学教室の瀬戸美奈子先生，中西良文先生，南 学先生をはじめ，学校教育講座の先生方には，研究を進める上で貴重なアドバイスをいただきました。また，人間発達科学コースの同期，後輩にも相談に乗ってもらいました。人間発達科学コース，学校教育コースの同期とは，励まし励まされながら，みんなで乗り越えてきました。いつも支えてくれる先生方や仲間たちと出会えて本当によかったと思います。ありがとうございました。

平成 28 年 1 月 20 日

【資料】

質問紙調査票パターン①

大学生の意識調査

本日は調査にご協力いただきありがとうございます。
　この調査は、大学生が日常生活を営む中でどのように考え、行動するものであるかを調べるために行うものです。正しい答えや、間違った答えというものはありません。思ったとおりに答えてください。
　この調査は 4 つのパートで構成されています。また、表紙を合わせて 8 枚からなっていますので、乱丁・落丁等がありましたら申し出てください。
　回答は全て研究室の厳重な管理のもとで、直ちに記号化され、コンピュータにより統計的に分析されます。ご協力いただいた方にご迷惑をおかけすることは決してありませんので、日頃お感じになっていることを率直にお答えください。またこの調査は、コンピュータにデータを入力後、シュレッダーにて処分するなど、個人情報の保護に最大限の配慮をいたします。
　それぞれの質問をよく読み、当てはまる全ての質問について答えてください。回答もれのないようにお願いします。

　この質問紙への回答を卒業論文のための分析に使用することに同意していただけますか。同意していただける場合には、下の「同意する」に、同意いただけない場合には「同意しない」に○をお願いいたします。

同意する　／　同意しない

※研究に同意いただける方は、以下の欄をご記入してください。

学年（　　）年　　年齢（　　）歳　　性別（　男　・　女　）

三重大学　教育学部　人間発達科学コース 4 年 212710　堤　あい
212710@m.mie-u.ac.jp
担当教員：三重大学　教育学部　学校教育講座　松浦　均

Ⅰ．大学生活の中の日常的な場面を４つ提示します。それを読み、その後にある質問にお答えください。

1．次のある小説の一場面を読み、その後の質問にお答えください。

前期が始まり，初回の授業までに教科書を買っておかないといけないことを僕は思い出した。今日の午後にその授業があるので，それまでに買っておかなければならない。幸い２コマ目は空きコマで，今から友達と生協に買いに行くことにした。生協で，その教科書を見つけて手に取ったとき、僕は財布がないことに気がついた。家に忘れてきたのだ。しまったなあと思ったが，家に財布を取りに戻る時間もないし，教科書を用意していなければ授業に出ても困ると思い，友達にお金を借りようと考えた。
「財布を忘れてしまったんだ。悪いんだけど２０００円ほど貸してくれないかな？」
友達は「いいよ。」と言って，２０００円貸してくれた。

(1)この場面での主人公（僕）について、どのような印象を持ちましたか。両端に示した形容詞のどちらの方が近いか、近い方の数字に○をしてください。

消極的な	1	2	3	4	5	**積極的な**
生意気な	1	2	3	4	5	**生意気でない**
近づきがたい	1	2	3	4	5	**人懐っこい**
恥ずかしがり	1	2	3	4	5	**恥知らず**
慎重な	1	2	3	4	5	**軽率な**
無責任な	1	2	3	4	5	**責任感の強い**
卑屈な	1	2	3	4	5	**堂々とした**
感じの良い	1	2	3	4	5	**感じのわるい**
無分別な	1	2	3	4	5	**分別のある**
親しみにくい	1	2	3	4	5	**親しみやすい**
短気な	1	2	3	4	5	**気長な**
意欲的な	1	2	3	4	5	**無気力な**
人のよい	1	2	3	4	5	**人のわるい**
社交的な	1	2	3	4	5	**非社交的な**
自信のある	1	2	3	4	5	**自信のない**
かわいらしい	1	2	3	4	5	**にくらしい**

(2)この主人公（僕）に対する好意度はどれぐらいですか。

嫌い	1	2	3	4	5	**好き**

(3)もし、あなたが友達の立場なら、この主人公（僕）の依頼を受けますか。

受けない	1	2	3	4	5	**受ける**

(4)主人公（僕）のこのような依頼は正当性があると思いますか。

正当性なし	1	2	3	4	5	**正当性あり**

(5)もし自分が主人公（僕）の立場だったら、このような依頼をする可能性はありますか。

可能性なし	1	2	3	4	5	**可能性あり**

2. 次の場面での話を読んで、その後の質問にお答えください。

数学の授業で、先生が問題１の解答の解説をしている。僕はそれを無視して、最近読み始めた小説を、下を向いて見つからないようにこっそり読み続けた。すべての問題の解説が終わって授業が終わった。小説に夢中になってしまい，授業の内容は全然入っていない。答え合わせくらいしておこうと思い、板書を見ながら確認した。問題１が間違っていたが、なぜ間違っているのかがわからなかった。昼休みになり、数学のできる友達に聞いてみた。

「さっきの数学の授業でさ，問題１の答えがどうしてこうなるのかわからないんだ。教えてくれないかな？」

友達は「いいよ。」と言って，説明を始めた。

(1)この場面での主人公（僕）について、どのような印象を持ちましたか。両端に示す形容詞のどちらの方が近いか、近い方の数字に○をしてください。

消極的な	1	2	3	4	5	**積極的な**
生意気な	1	2	3	4	5	**生意気でない**
近づきがたい	1	2	3	4	5	**人懐っこい**
恥ずかしがり	1	2	3	4	5	**恥知らず**
慎重な	1	2	3	4	5	**軽率な**
無責任な	1	2	3	4	5	**責任感の強い**
卑屈な	1	2	3	4	5	**堂々とした**
感じの良い	1	2	3	4	5	**感じのわるい**
無分別な	1	2	3	4	5	**分別のある**
親しみにくい	1	2	3	4	5	**親しみやすい**
短気な	1	2	3	4	5	**気長な**
意欲的な	1	2	3	4	5	**無気力な**
人のよい	1	2	3	4	5	**人のわるい**
社交的な	1	2	3	4	5	**非社交的な**
自信のある	1	2	3	4	5	**自信のない**
かわいらしい	1	2	3	4	5	**にくらしい**

(2)この主人公（僕）に対する好意度はどれぐらいですか。

嫌い	1	2	3	4	5	**好き**

(3)もし、あなたが友達の立場なら、この主人公（僕）の依頼を受けますか。

受けない	1	2	3	4	5	**受ける**

(4)主人公（僕）のこのような依頼は正当性があると思いますか。

正当性なし	1	2	3	4	5	**正当性あり**

(5)もし自分が主人公（僕）の立場だったら、このような依頼をする可能性はありますか。

可能性なし	1	2	3	4	5	**可能性あり**

3．次の場面での話を読んで、その後の質問にお答えください。

私は大学で歴史系のサークルに入っている。年に一度，近隣の大学の歴史サークルメンバーが一同に集まり，食事を兼ねた総会をすることになっている。今年は私の大学が幹事校で，しかも会計担当の私が幹事をすることになった。日にちは決まっているけど、お食事会の場所が決まっていない。日も近づいてきて、そろそろ決める必要があった。しかし、私は大学付近の手頃なお店をあまり知らなかったし，一人で決めてしまうのも何となく気が引けたので，普段一緒にいるＫ子に一緒にさがしてもらおうと思った。
「今度の総会のときのお食事会のお店，どこにしたらいいか，なかなか決められなくって。大学付近のどこか良いお店，一緒に探してくれない？」
「いいわよ。一緒に探しましょう」とＫ子は言ってくれた。

(1)この場面での主人公（私）について、どのような印象を持ちましたか。両端に示す形容詞のどちらの方が近いか、近い方の数字に○をしてください。

消極的な	1	2	3	4	5	**積極的な**
生意気な	1	2	3	4	5	**生意気でない**
近づきがたい	1	2	3	4	5	**人懐っこい**
恥ずかしがり	1	2	3	4	5	**恥知らず**
慎重な	1	2	3	4	5	**軽率な**
無責任な	1	2	3	4	5	**責任感の強い**
卑屈な	1	2	3	4	5	**堂々とした**
感じの良い	1	2	3	4	5	**感じのわるい**
無分別な	1	2	3	4	5	**分別のある**
親しみにくい	1	2	3	4	5	**親しみやすい**
短気な	1	2	3	4	5	**気長な**
意欲的な	1	2	3	4	5	**無気力な**
人のよい	1	2	3	4	5	**人のわるい**
社交的な	1	2	3	4	5	**非社交的な**
自信のある	1	2	3	4	5	**自信のない**
かわいらしい	1	2	3	4	5	**にくらしい**

(2)この主人公（私）に対する好意度はどれぐらいですか。

嫌い	1	2	3	4	5	**好き**

(3)もし、あなたが友達の立場なら、この主人公（私）の依頼を受けますか。

受けない	1	2	3	4	5	**受ける**

(4)主人公（私）のこのような依頼は正当性があると思いますか。

正当性なし	1	2	3	4	5	**正当性あり**

(5)もし自分が主人公（私）の立場だったら、このような依頼をする可能性はありますか。

可能性なし	1	2	3	4	5	**可能性あり**

4. 次の場面での話を読んで、その後の質問にお答えください。

大学３年も後半になって，卒業後のことがちらついてきた。来年，私は「就活」をするのか，公務員の試験でも受けるのか，なかなかイメージがわかない。周りの友だちは，公務員を目指して勉強を始めたと言っていたけど，「ふぅーん」って感じ。暑い夏に「就活」をしなければならないのも，公務員目指してならひたすら勉強をしなければならないのも，どっちもしんどいとしか思えない。

そんなとき，大学のキャリアセンターの就職希望調査があった。いろいろ書いて出さなきゃいけないみたいけど，こういうのが私はどうしてもめんどくさいと思ってしまう。仕方がないので，とりあえず誰かにどんなこと書いたのか聞いてみようと思って，親友のＡ子に相談することにした。

「ねえ，私，卒業後の進路で，なんか迷ってしまって・・・，一度相談にのってくれるかな？」

Ａ子は「いいよ，いつでも話は聞くよ」と言ってくれた。

(1)この場面での主人公（私）について、どのような印象を持ちましたか。両端に示す形容詞のどちらの方が近いか、近い方の数字に○をしてください。

消極的な	1	2	3	4	5	**積極的な**
生意気な	1	2	3	4	5	**生意気でない**
近づきがたい	1	2	3	4	5	**人懐っこい**
恥ずかしがり	1	2	3	4	5	**恥知らず**
慎重な	1	2	3	4	5	**軽率な**
無責任な	1	2	3	4	5	**責任感の強い**
卑屈な	1	2	3	4	5	**堂々とした**
感じの良い	1	2	3	4	5	**感じのわるい**
無分別な	1	2	3	4	5	**分別のある**
親しみにくい	1	2	3	4	5	**親しみやすい**
短気な	1	2	3	4	5	**気長な**
意欲的な	1	2	3	4	5	**無気力な**
人のよい	1	2	3	4	5	**人のわるい**
社交的な	1	2	3	4	5	**非社交的な**
自信のある	1	2	3	4	5	**自信のない**
かわいらしい	1	2	3	4	5	**にくらしい**

(2)この主人公（私）に対する好意度はどれぐらいですか。

嫌い	1	2	3	4	5	**好き**

(3)もし、あなたが友達の立場なら、この主人公（私）の依頼を受けますか。

受けない	1	2	3	4	5	**受ける**

(4)主人公（私）のこのような依頼は正当性があると思いますか。

正当性なし	1	2	3	4	5	**正当性あり**

(5)もし自分が主人公（私）の立場だったら、このような依頼をする可能性はありますか。

可能性なし	1	2	3	4	5	**可能性あり**

Ⅱ　次の項目はあなたにとってどの程度あてはまりますか。「あてはまらない(1 点)」から「あてはまる(5 点)」までのうち、最もあてはまると思う数字に○をつけてください。

		あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる
1	困っていることを解決するために、他者からの助言や援助が欲しい‥	1	2	3	4	5
2	自分が困っている時には、話を聞いてくれる人が欲しい‥‥‥‥‥‥	1	2	3	4	5
3	自分は、人に相談したり援助を求める時、いつも心苦しさを感じる‥‥	1	2	3	4	5
4	今後も、自分の周りの人に助けられながら上手くやっていきたい‥‥	1	2	3	4	5
5	自分は、よほどのことがない限り、人に相談することがない‥‥‥‥‥	1	2	3	4	5
6	他人からの助言や援助を受けることに抵抗がある‥‥‥‥‥‥‥‥‥	1	2	3	4	5
7	困っている事を解決する為に自分と一緒に対処してくれる人が欲しい	1	2	3	4	5
8	他人の援助や助言は、あまり役に立たないと思っている‥‥‥‥‥‥	1	2	3	4	5
9	人は誰からでも相談や援助を求められたら、わずらわしく感じると思う	1	2	3	4	5
10	何事も他人に頼らず、自分で解決したい‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥	1	2	3	4	5
11	自分が困っている時、周りの人にはそっとしておいてほしい‥‥‥‥	1	2	3	4	5

Ⅲ　次の項目はあなたにとってどの程度あてはまりますか。「あてはまらない(1 点)」から「あてはまる(5 点)」までのうち、最もあてはまると思う数字に○をつけてください。

		あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる
1	よく考えれば大したことないと思えることでも、割と援助を求める・・・・・	1	2	3	4	5
2	先に自分で試行錯誤し、行き詰ったら援助を求める・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
3	困りごとが自分では解決できなくても援助を求めない・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
4	悩みを抱えたら、それがあまり深刻なものでなくても、相談する・・・・・	1	2	3	4	5
5	少し辛くても自分で悩みに向き合い、それでも無理だったら相談する	1	2	3	4	5
6	悩みは最後まで、自分一人でかかえる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
7	比較的些細な悩みでも相談する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
8	先に自分で、いろいろとやってみてから相談する・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
9	悩みがどのようなものでも、最後まで自分一人で頑張る・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
10	困ったことがあったら、割とすぐに援助を求める・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
11	困りごとが自分一人ではどうしようもなかった時は援助を求める・・・・・	1	2	3	4	5
12	悩みが深刻で、一人で解決できなくても、相談はしない・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5

Ⅳ 次の項目はあなたにとってどの程度あてはまりますか。「全くそう思わない(1 点)」から「そう思う(5 点)」までのうち、最もあてはまると思う数字に○をつけてください。

		全くそう思わない	あまりそう思わない	どちらともいえない	ややそう思う	そう思う
1	他人の行動の動機を知ることに関心がある・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
2	他人事でも、一喜一憂することが多い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
3	人が本当はどんな人物であるかに関心がない・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
4	他人の感情や気持ちを考えることは意味がない・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
5	人が私の行為についてどのように考えているかは重要ではない・・・・	1	2	3	4	5
6	人からの批判が気になる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
7	微笑みかけたり嫌な顔をする人が気にかかる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
8	仕事上の付き合いでは、個人的に親しくなることは重要ではない・・・・	1	2	3	4	5
9	人付き合いが良い方だと思う・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
10	自分は自分、他人は他人と割り切って物事を考える方である・・・・・・・	1	2	3	4	5
11	出会った人とは、できるだけ親密になろうと努力する・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
12	あまり人のことには立ち入らない方である・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
13	同じゲームをやるなら、一人でできるものよりも相手がいてできるものの方が良い・・	1	2	3	4	5
14	人のことには構わず、マイペースで行動する方である・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
15	日頃から人間関係を大事にしている・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
16	自分と関わりのある人については、なるべくいろいろなことを知りたいと思う・・・	1	2	3	4	5
17	自分にとって人間関係は煩わしいものである・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
18	人から個人的な話を持ちかけられるのは煩わしいものだ・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5

※記入漏れがないか確認してください。

ご協力ありがとうございました。

質問紙調査票パターン②

大学生の意識調査

本日は調査にご協力いただきありがとうございます。
　この調査は、大学生が日常生活を営む中でどのように考え、行動するものであるかを調べるために行うものです。正しい答えや、間違った答えというものはありません。思ったとおりに答えてください。
　この調査は 4 つのパートで構成されています。また、表紙を合わせて 8 枚からなっていますので、乱丁・落丁等がありましたら申し出てください。
　回答は全て研究室の厳重な管理のもとで、直ちに記号化され、コンピュータにより統計的に分析されます。ご協力いただいた方にご迷惑をおかけすることは決してありませんので、日頃お感じになっていることを率直にお答えください。またこの調査は、コンピュータにデータを入力後、シュレッダーにて処分するなど、個人情報の保護に最大限の配慮をいたします。
　それぞれの質問をよく読み、当てはまる全ての質問について答えてください。回答もれのないようにお願いします。

　この質問紙への回答を卒業論文のための分析に使用することに同意していただけますか。同意していただける場合には、下の「同意する」に、同意いただけない場合には「同意しない」に〇をお願いいたします。

同意する　／　同意しない

※研究に同意いただける方は、以下の欄をご記入してください。

学年（　　）年　　年齢（　　）歳　　性別（ 男 ・ 女 ）

三重大学　教育学部　人間発達科学コース 4 年 212710　堤　あい
212710@m.mie-u.ac.jp
担当教員：三重大学　教育学部　学校教育講座　松浦　均

Ⅰ．大学生活の中の日常的な場面を４つ提示します。それを読み、その後にある質問にお答えください。

1．次のある小説の一場面を読み、その後の質問にお答えください。

前期が始まり，初回の授業までに教科書を買っておかないといけないことを僕は思い出した。今日の午後にその授業があるので，それまでに買っておかなければならない。幸い２コマ目は空きコマで，今から友達と生協に買いに行くことにした。生協に行くと，今日発売のマンガを見つけてしまった。発売を楽しみにしていたやつだ。教科書よりもこっちだと思って，マンガを手に取ったとき，僕は財布がないことに気がついた。しまったなあと思ったが，どうしてもマンガを読みたくなり，友達にお金を借りようと考えた。
「財布を忘れてしまったんだ。悪いんだけど５００円ほど貸してくれないかな？」
友達は「いいよ。」と言って，５００円貸してくれた。

(1)この場面での主人公（僕）について、どのような印象を持ちましたか。両端に示した形容詞のどちらの方が近いか、近い方の数字に○をしてください。

消極的な	1	2	3	4	5	**積極的な**
生意気な	1	2	3	4	5	**生意気でない**
近づきがたい	1	2	3	4	5	**人懐っこい**
恥ずかしがり	1	2	3	4	5	**恥知らず**
慎重な	1	2	3	4	5	**軽率な**
無責任な	1	2	3	4	5	**責任感の強い**
卑屈な	1	2	3	4	5	**堂々とした**
感じの良い	1	2	3	4	5	**感じのわるい**
無分別な	1	2	3	4	5	**分別のある**
親しみにくい	1	2	3	4	5	**親しみやすい**
短気な	1	2	3	4	5	**気長な**
意欲的な	1	2	3	4	5	**無気力な**
人のよい	1	2	3	4	5	**人のわるい**
社交的な	1	2	3	4	5	**非社交的な**
自信のある	1	2	3	4	5	**自信のない**
かわいらしい	1	2	3	4	5	**にくらしい**

(2)この主人公（僕）に対する好意度はどれぐらいですか。

嫌い	1	2	3	4	5	**好き**

(3)もし、あなたが友達の立場なら、この主人公（僕）の依頼を受けますか。

受けない	1	2	3	4	5	**受ける**

(4)主人公（僕）のこのような依頼は正当性があると思いますか。

正当性なし	1	2	3	4	5	**正当性あり**

(5)もし自分が主人公（僕）の立場だったら、このような依頼をする可能性はありますか。

可能性なし	1	2	3	4	5	**可能性あり**

2. 次の場面での話を読んで、その後の質問にお答えください。

> 数学の授業で、先生が問題１の解答の解説をしている。さっきから黒板をノートに写しているのだが、僕にはどうもわからなくて，理解ができない。先生は「問題１はこれでいいな。次にいくぞ」と言って問題２の説明に移っていったが、僕はさっきの問題１について考え続けていた。結局、授業が終わるまで考えていたがわからなかった。そこで、昼休みに数学のできる友達に聞くことにした。
> 「さっきの数学の授業でさ，問題１の答えがどうしてこうなるのかわからないんだ。教えてくれないかな？」
> 友達は「いいよ。」と言って，説明を始めた。

(1)この場面での主人公（僕）について、どのような印象を持ちましたか。両端に示す形容詞のどちらの方が近いか、近い方の数字に○をしてください。

消極的な	1	2	3	4	5	**積極的な**
生意気な	1	2	3	4	5	**生意気でない**
近づきがたい	1	2	3	4	5	**人懐っこい**
恥ずかしがり	1	2	3	4	5	**恥知らず**
慎重な	1	2	3	4	5	**軽率な**
無責任な	1	2	3	4	5	**責任感の強い**
卑屈な	1	2	3	4	5	**堂々とした**
感じの良い	1	2	3	4	5	**感じのわるい**
無分別な	1	2	3	4	5	**分別のある**
親しみにくい	1	2	3	4	5	**親しみやすい**
短気な	1	2	3	4	5	**気長な**
意欲的な	1	2	3	4	5	**無気力な**
人のよい	1	2	3	4	5	**人のわるい**
社交的な	1	2	3	4	5	**非社交的な**
自信のある	1	2	3	4	5	**自信のない**
かわいらしい	1	2	3	4	5	**にくらしい**

(2)この主人公（僕）に対する好意度はどれぐらいですか。

嫌い	1	2	3	4	5	**好き**

(3)もし、あなたが友達の立場なら、この主人公（僕）の依頼を受けますか。

受けない	1	2	3	4	5	**受ける**

(4)主人公（僕）のこのような依頼は正当性があると思いますか。

正当性なし	1	2	3	4	5	**正当性あり**

(5)もし自分が主人公（僕）の立場だったら、このような依頼をする可能性はありますか。

可能性なし	1	2	3	4	5	**可能性あり**

3．次の場面での話を読んで、その後の質問にお答えください。

私は大学で歴史系のサークルに入っている。年に一度，近隣の大学の歴史サークルメンバーが一同に集まり，食事を兼ねた総会をすることになっている。今年は私の大学が幹事校で，しかも会計担当の私が幹事をすることになった。日にちは決まっているけど、お食事会の場所が決まっていない。日も近づいてきて、そろそろ決める必要があった。しかし、この仕事は本当にめんどくさくて，全然やる気がしなかった。最初から乗り気がしないし，当日のことを考えるとうんざりしてしまう。この際，普段一緒にいるＫ子にこの仕事をやってもらおうと思った。

「今度の総会のときのお食事会のお店，どこにしたらいいか，なかなか決められなくって。大学付近のどこか良いお店，一緒に探してくれない？」

「いいわよ。一緒に探しましょう」とＫ子は言ってくれた。

(1)この場面での主人公（私）について、どのような印象を持ちましたか。両端に示す形容詞のどちらの方が近いか、近い方の数字に○をしてください。

消極的な	1	2	3	4	5	**積極的な**
生意気な	1	2	3	4	5	**生意気でない**
近づきがたい	1	2	3	4	5	**人懐っこい**
恥ずかしがり	1	2	3	4	5	**恥知らず**
慎重な	1	2	3	4	5	**軽率な**
無責任な	1	2	3	4	5	**責任感の強い**
卑屈な	1	2	3	4	5	**堂々とした**
感じの良い	1	2	3	4	5	**感じのわるい**
無分別な	1	2	3	4	5	**分別のある**
親しみにくい	1	2	3	4	5	**親しみやすい**
短気な	1	2	3	4	5	**気長な**
意欲的な	1	2	3	4	5	**無気力な**
人のよい	1	2	3	4	5	**人のわるい**
社交的な	1	2	3	4	5	**非社交的な**
自信のある	1	2	3	4	5	**自信のない**
かわいらしい	1	2	3	4	5	**にくらしい**

(2)この主人公（私）に対する好意度はどれぐらいですか。

嫌い	1	2	3	4	5	**好き**

(3)もし、あなたが友達の立場なら、この主人公（私）の依頼を受けますか。

受けない	1	2	3	4	5	**受ける**

(4)主人公（私）のこのような依頼は正当性があると思いますか。

正当性なし	1	2	3	4	5	**正当性あり**

(5)もし自分が主人公（私）の立場だったら、このような依頼をする可能性はありますか。

可能性なし	1	2	3	4	5	**可能性あり**

4. 次の場面での話を読んで、その後の質問にお答えください。

大学３年も後半になって，卒業後のことがちらついてきて、毎日悩んでいる。周りの友だちは，公務員を目指して勉強を始めたと言っていた。こんなことを聞くたびに焦ってしまう。一般企業なら暑い夏に「就活」をしなければならない。公務員ならひたすら勉強をしなければならない。どっちもしんどいけど，どっちもそれぞれに魅力があって，私はずっと迷っていた。

そんなとき，大学のキャリアセンターの就職希望調査があった。いろいろ書いて出さなきゃならないけど，書類に記入する手が進まなかった。企業と公務員と，どちらが自分に合ってるかがやっぱりわからなくて悩んでいるのだ。誰かに客観的な意見を聞いてみたいと思って，親友のＡ子に相談することにした。

「ねえ，私，卒業後の進路で，なんか迷ってしまって・・・，一度相談にのってほしいんだけど？」

Ａ子は「いいよ，いつでも話聞くよ」と言ってくれた。

(1)この場面での主人公（私）について、どのような印象を持ちましたか。両端に示す形容詞のどちらの方が近いか、近い方の数字に○をしてください。

消極的な	1	2	3	4	5	**積極的な**
生意気な	1	2	3	4	5	**生意気でない**
近づきがたい	1	2	3	4	5	**人懐っこい**
恥ずかしがり	1	2	3	4	5	**恥知らず**
慎重な	1	2	3	4	5	**軽率な**
無責任な	1	2	3	4	5	**責任感の強い**
卑屈な	1	2	3	4	5	**堂々とした**
感じの良い	1	2	3	4	5	**感じのわるい**
無分別な	1	2	3	4	5	**分別のある**
親しみにくい	1	2	3	4	5	**親しみやすい**
短気な	1	2	3	4	5	**気長な**
意欲的な	1	2	3	4	5	**無気力な**
人のよい	1	2	3	4	5	**人のわるい**
社交的な	1	2	3	4	5	**非社交的な**
自信のある	1	2	3	4	5	**自信のない**
かわいらしい	1	2	3	4	5	**にくらしい**

(2)この主人公（私）に対する好意度はどれぐらいですか。

嫌い	1	2	3	4	5	**好き**

(3)もし、あなたが友達の立場なら、この主人公（私）の依頼を受けますか。

受けない	1	2	3	4	5	**受ける**

(4)主人公（私）のこのような依頼は正当性があると思いますか。

正当性なし	1	2	3	4	5	**正当性あり**

(5)もし自分が主人公（私）の立場だったら、このような依頼をする可能性はありますか。

可能性なし	1	2	3	4	5	**可能性あり**

Ⅱ　次の項目はあなたにとってどの程度あてはまりますか。「あてはまらない(1 点)」から「あてはまる(5 点)」までのうち、最もあてはまると思う数字に○をつけてください。

		あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる
1	困っていることを解決するために、他者からの助言や援助が欲しい・・	1	2	3	4	5
2	自分が困っている時には、話を聞いてくれる人が欲しい・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
3	自分は、人に相談したり援助を求める時、いつも心苦しさを感じる・・・	1	2	3	4	5
4	今後も、自分の周りの人に助けられながら上手くやっていきたい・・・・	1	2	3	4	5
5	自分は、よほどのことがない限り、人に相談することがない・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
6	他人からの助言や援助を受けることに抵抗がある・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
7	困っている事を解決する為に自分と一緒に対処してくれる人が欲しい	1	2	3	4	5
8	他人の援助や助言は、あまり役に立たないと思っている・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
9	人は誰からでも相談や援助を求められたら、わずらわしく感じると思う	1	2	3	4	5
10	何事も他人に頼らず、自分で解決したい・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
11	自分が困っている時、周りの人にはそっとしておいてほしい・・・・・・・・	1	2	3	4	5

Ⅲ　次の項目はあなたにとってどの程度あてはまりますか。「あてはまらない(1 点)」から「あてはまる(5 点)」までのうち、最もあてはまると思う数字に○をつけてください。

		あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる
1	よく考えれば大したことないと思えることでも、割と援助を求める・・・・・	1	2	3	4	5
2	先に自分で試行錯誤し、行き詰ったら援助を求める・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
3	困りごとが自分では解決できなくても援助を求めない・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
4	悩みを抱えたら、それがあまり深刻なものでなくても、相談する・・・・・	1	2	3	4	5
5	少し辛くても自分で悩みに向き合い、それでも無理だったら相談する	1	2	3	4	5
6	悩みは最後まで、自分一人でかかえる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
7	比較的些細な悩みでも相談する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
8	先に自分で、いろいろとやってみてから相談する・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
9	悩みがどのようなものでも、最後まで自分一人で頑張る・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
10	困ったことがあったら、割とすぐに援助を求める・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5
11	困りごとが自分一人ではどうしようもなかった時は援助を求める・・・・・	1	2	3	4	5
12	悩みが深刻で、一人で解決できなくても、相談はしない・・・・・・・・・・・・・	1	2	3	4	5

Ⅳ 次の項目はあなたにとってどの程度あてはまりますか。「全くそう思わない(1 点)」から「そう思う(5 点)」までのうち、最もあてはまると思う数字に○をつけてください。

		全くそう思わない	あまりそう思わない	どちらともいえない	ややそう思う	そう思う
1	他人の行動の動機を知ることに関心がある……………………	1	2	3	4	5
2	他人事でも、一喜一憂することが多い………………………	1	2	3	4	5
3	人が本当はどんな人物であるかに関心がない………………	1	2	3	4	5
4	他人の感情や気持ちを考えることは意味がない……………	1	2	3	4	5
5	人が私の行為についてどのように考えているかは重要ではない…．	1	2	3	4	5
6	人からの批判が気になる………………………………………	1	2	3	4	5
7	微笑みかけたり嫌な顔をする人が気にかかる………………	1	2	3	4	5
8	仕事上の付き合いでは、個人的に親しくなることは重要ではない…．	1	2	3	4	5
9	人付き合いが良い方だと思う…………………………………	1	2	3	4	5
10	自分は自分、他人は他人と割り切って物事を考える方である……	1	2	3	4	5
11	出会った人とは、できるだけ親密になろうと努力する…………	1	2	3	4	5
12	あまり人のことには立ち入らない方である……………………	1	2	3	4	5
13	同じゲームをやるなら、一人でできるものよりも相手がいてできるものの方が良い…………………………………………………	1	2	3	4	5
14	人のことには構わず、マイペースで行動する方である…………	1	2	3	4	5
15	日頃から人間関係を大事にしている…………………………	1	2	3	4	5
16	自分と関わりのある人については、なるべくいろいろなことを知りたいと思う……………………………………………………	1	2	3	4	5
17	自分にとって人間関係は煩わしいものである…………………	1	2	3	4	5
18	人から個人的な話を持ちかけられるのは煩わしいものだ………	1	2	3	4	5

※記入漏れがないか確認してください。

ご協力ありがとうございました。